

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2024年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業265社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：157社（59.2%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

- －主要3項目DI全てが低下、採算は2期連続マイナス水準、約半数の企業で従業員が不足－  
前年同期（2023年7月～9月）と比べた今期（2024年7月～9月）の状況  
今期と比べた来期（2024年10月～12月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは9.3で、前年同期と比べ13.0ポイント低下しました。業況DIは9期連続、売上DIは10期連続プラス水準で推移しましたが、採算DIは前期に引き続きマイナス水準となりました。卸売業と観光業は主要3項目DI全てがプラスを維持し、景況感を下支えしました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が課題で、半数弱の企業で従業員が不足しています。

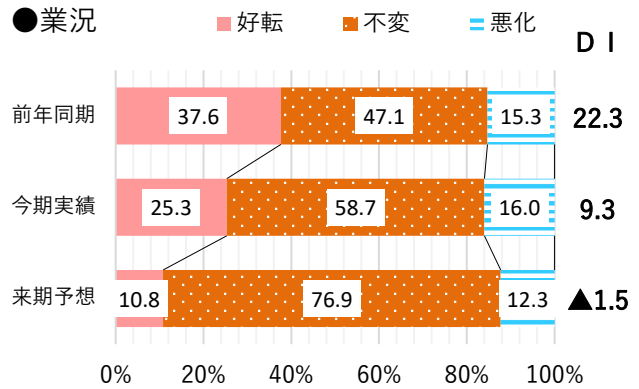
業種別業況DIは、製造業が同25.9ポイント低下の3.1となりました。主要3項目DI全てが低下し、売上DIと採算DIはマイナス水準となりました。金属加工では60%の企業で設備操業率が低下し、業況が悪化しました。食料品では88%、プラスチックでは全ての企業で原材料価格が上昇しました。卸売業は同18.2ポイント低下の5.6となりました。主要3項目のDI全てが低下したものの、いずれも0.0以上を維持しました。食料品は66%の企業で仕入単価が上昇しました。小売業は同21.7ポイント低下の0.0、採算DIはマイナス水準となりました。大型店を除く食料品や日用品を扱う企業の85%で商品仕入単価が上昇しました。運輸・倉庫業は同20.5ポイント上昇の13.3となりました。業況DI、売上DIともにプラス水準となりましたが、採算DIマイナス水準となりました。道路旅客運送は全社で従業員が不足しています。道路貨物運送は42%の企業で売上が増加、業況が好転し、堅調に推移しました。倉庫は全社で保管残高が減少し、75%の企業で売上と在庫量が減少、採算が悪化しました。観光業は同24.3ポイント低下の34.3となりました。ホテルでは81%の企業で客単価が上昇した一方で、仕入単価の上昇や従業員不足に直面しており、業況が好転した企業は36%にとどまりました。サービス業は同21.7ポイント低下の0.0となりました。採算DIがマイナスに転じ、飲食店、ビルメンテナンスの全社で仕入単価が上昇しました。建設業は横ばいの8.7となり、業況DIと売上DIはプラス水準を維持、採算DIはマイナス幅を縮めました。一般土木工事業の半数の企業で従業員が増加し、このうち60%の企業が適正人員を確保しました。

来期の業況判断DIは▲1.5で、業況がマイナスに転じると予想しています。業種を問わず、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足といった課題に加え、最低賃金の引き上げや閑散期における需要の低下が主な懸念事項です。観光業では、日本人客の減少が見込まれるものの、外国人客の増加が期待されています。

業況、売上、採算

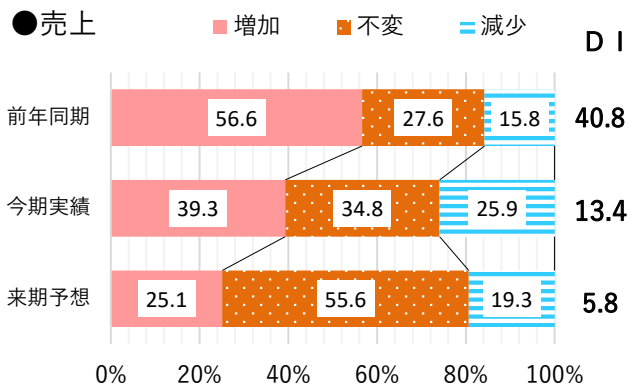
今期（2024.7～9）の業況判断DIは9.3で、前年同期（2023.7～9）と比べ13.0ポイント低下しました。

来期（2024.10～12）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



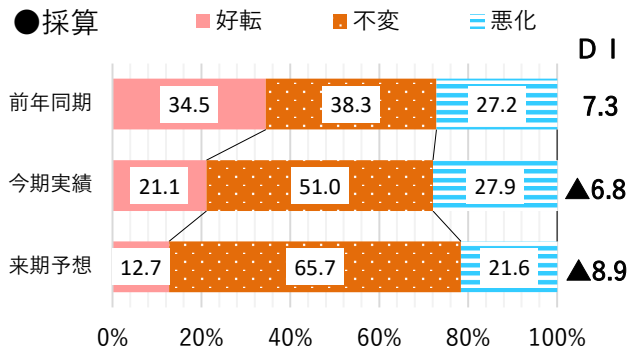
今期の売上DIは13.4で、前年同期と比べ27.4ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

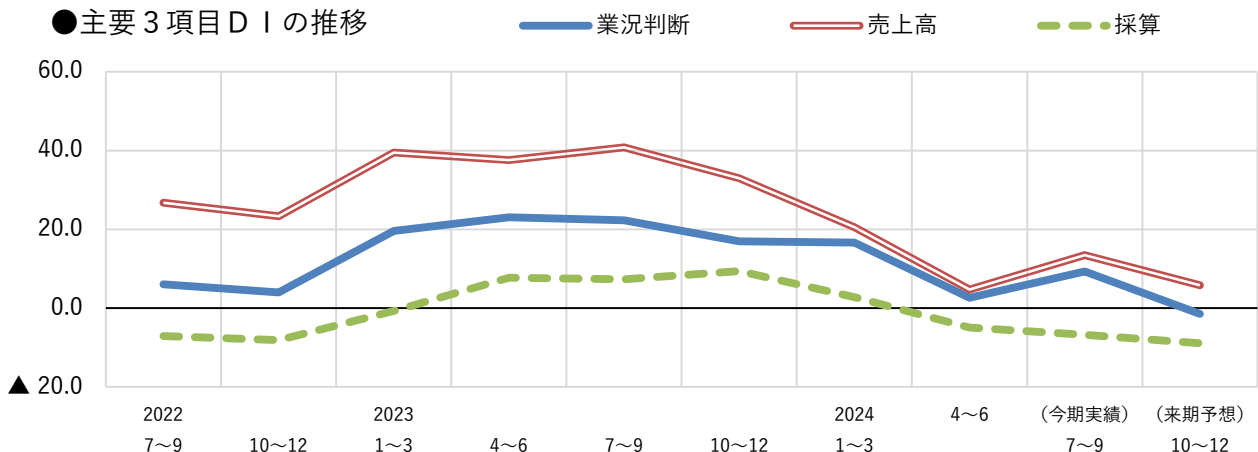


今期の採算DIは▲6.8で、前年同期と比べ14.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。



●主要3項目DIの推移



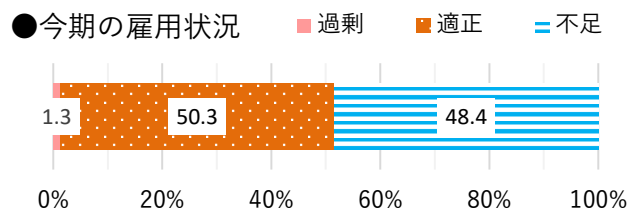
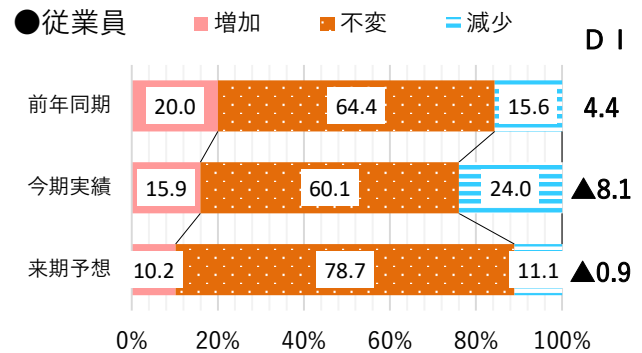
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.1で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスとなりました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.3%、適正であると回答した企業の割合は50.3%、不足していると回答した企業の割合は48.4%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、35.6%を占めました。48.4%の企業で従業員が不足している状況にあります。

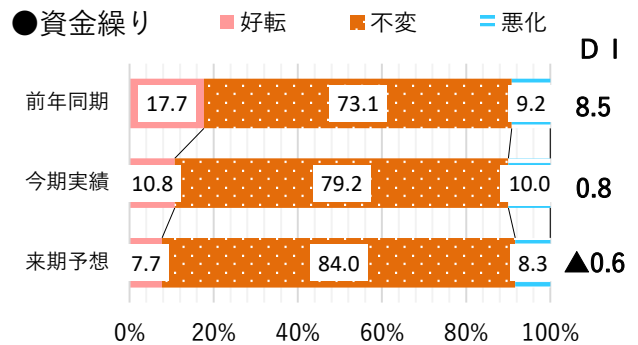


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	13
	不足	13
不変だった	過剰	1
	適正	56
	不足	34
減少した	過剰	0
	適正	10
	不足	29

資金繰り、設備投資

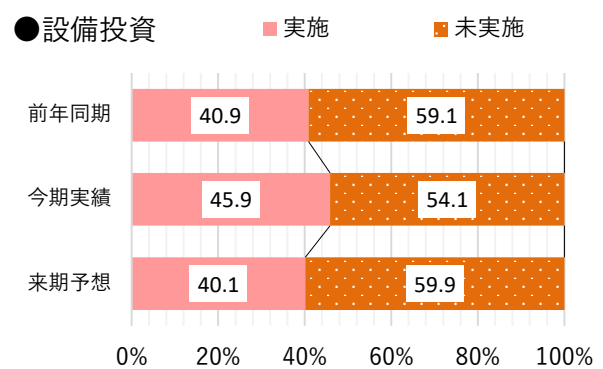
今期の資金繰りDIは0.8で、前年同期と比べ7.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった157社の45.9%にあたる72社が実施、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、40.1%にあたる63社が設備投資を計画していると回答しています。

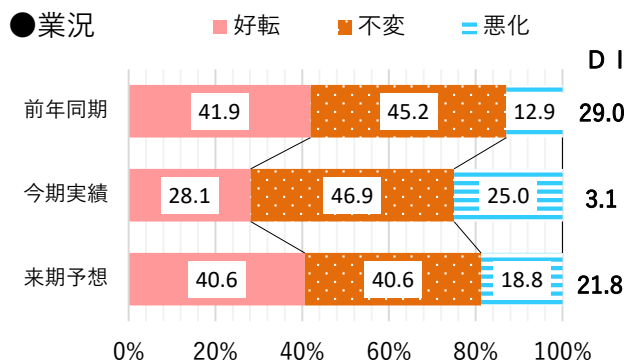


# 製造業

## 業況、売上、採算

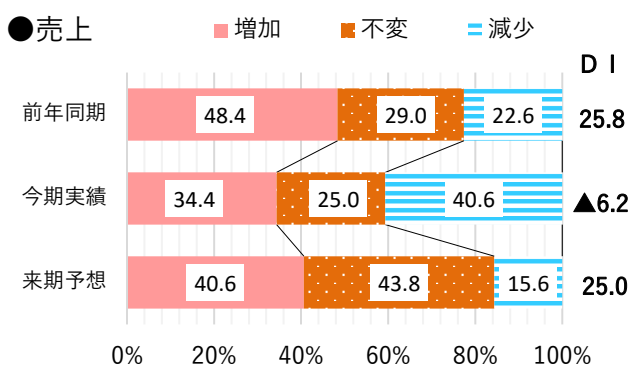
今期(2024.7~9)の業況判断DIは3.1で、前年同期(2023.7~9)と比べ25.9ポイント低下しました。

来期(2024.10~12)は、業況の好転傾向が強まると予想しています。



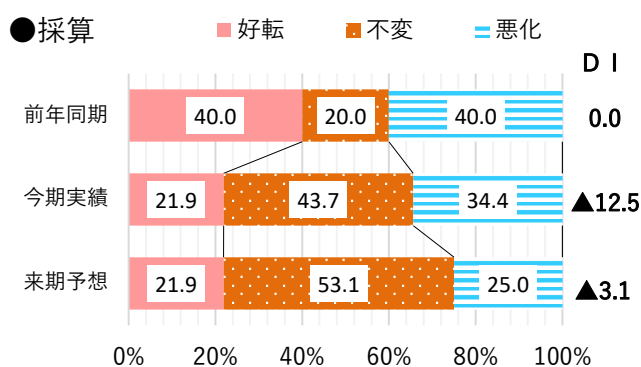
今期の売上DIは▲6.2で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

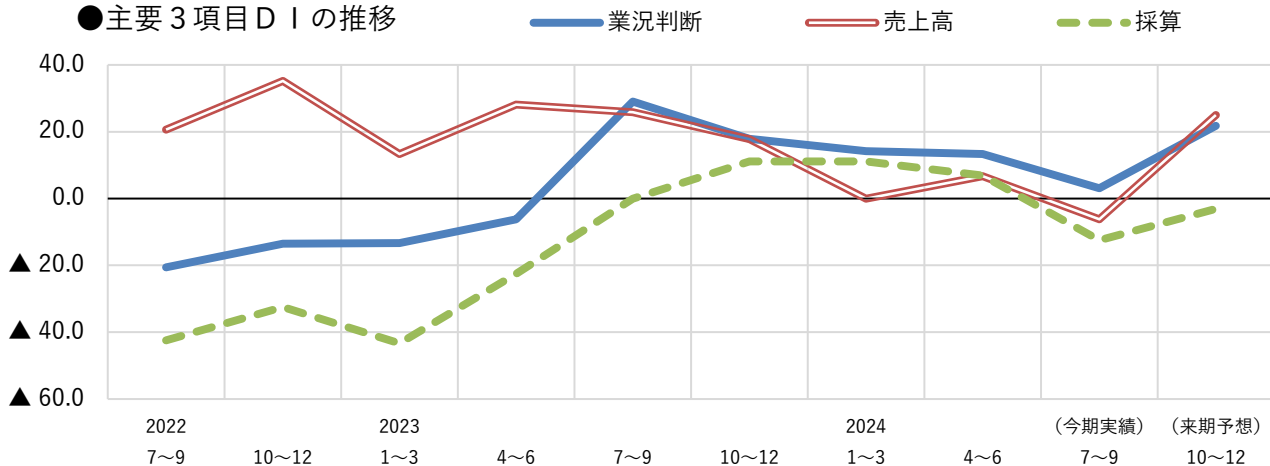


今期の採算DIは▲12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



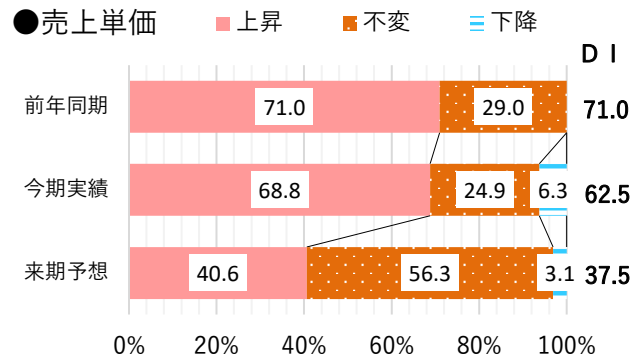
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

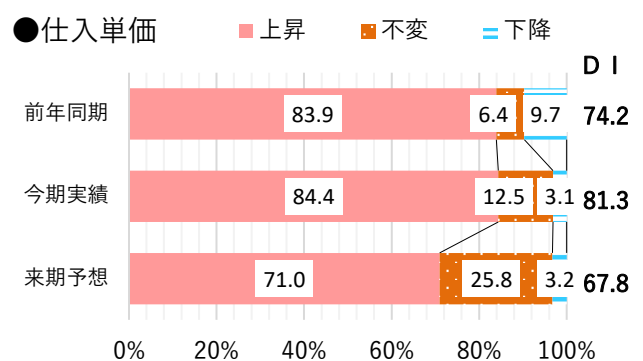
今期の売上単価DIは62.5で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



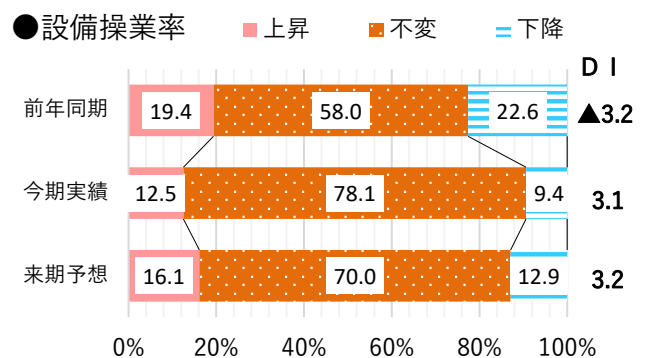
今期の仕入単価DIは81.3で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは3.1で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

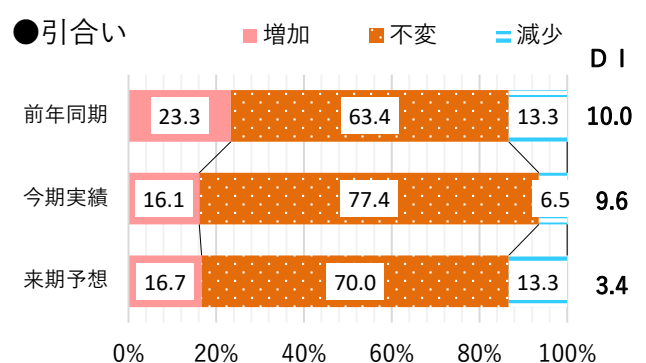
来期は、設備操業率のほぼ横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは9.6で、前年同期と比べ0.4ポイント低下しました。

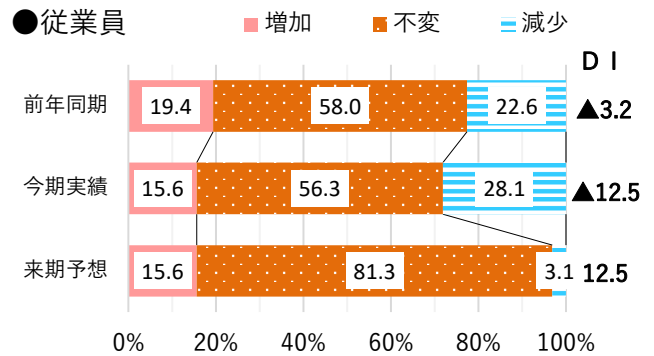
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



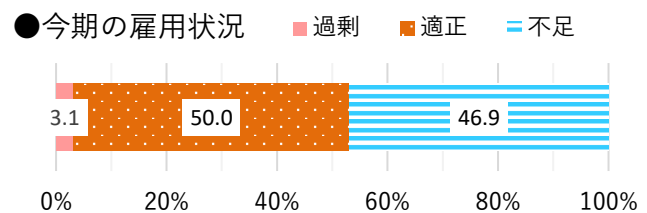
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲12.5で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.9%でした。



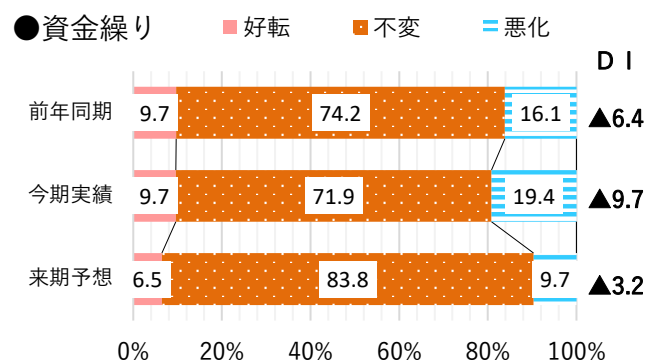
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、31.2%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。46.8%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	1
	適正	10
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	5

資金繰り、設備投資

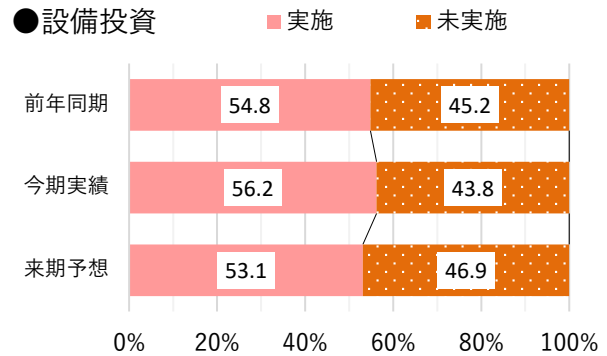
今期の資金繰りDIは▲9.7で、前年同期と比べ3.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



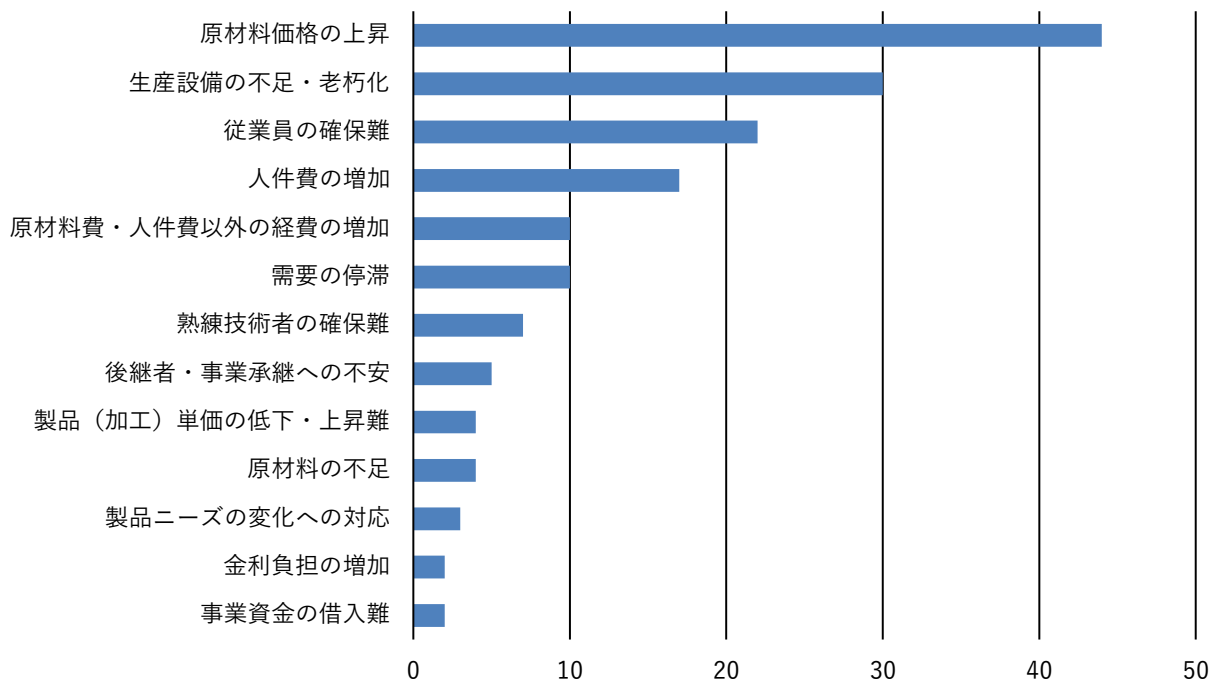
設備投資を実施した企業の割合は56.2%で、前年同期と比べ横ばいとなりました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は53.1%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- お土産需要、インバウンド需要の回復で売上額は増加しているが、原材料価格の上昇に価格転嫁が追いつかず、収益面では厳しい状況だ。（食料品）
- 前年比の売上はやや厳しい結果となったが、前年並の利益を確保できた。仕入価格の上昇はあるが、コストダウンを工夫している。（食料品）
- 原材料、包装資材等の仕入価格の上昇、燃料費、運賃等の主要経費の上昇に当社の販売価格の改定が追いついていない。（食料品）
- 販売価格の転嫁が奏功した。仕入価格が予想外に下落し、相応の収益を確保できた。（食料品）
- 売上は増加し、仕入価格は上昇した。最低賃金を上回る賃金を支給している。（食料品）
- 社会的な傾向だと分かってはいるが、原材料価格の上昇と賃上げが厳しい。（食料品）



- 売上は変わらないが、仕入価格の上昇による利益率の低下は否めない。（食料品）
- 売上は増加したが、原材料価格の高騰の影響が大きい。（食料品）
- 仕入額の上昇と人材確保が厳しい。（食料品）
- 施設改装に伴う効果により、売上が微増した。（飲料）
- 売上額は増加しているが、利益はそれほど増加していない。（金属製品）
- 工事の延期などの影響を受け、売上額は低調だった。（金属製品）
- ゴム長靴等、履物関係の不調が大きく響いた。特に主力の総ゴム靴において、前年同期比44%減と大きく出遅れた。これから冬物商戦が始まるため、夏の分を取り返したい。一方、クリーンルーム用の安全靴は前年並みと堅調だった。（ゴム製品）
- 物価高による消費低迷から、売上は伸び悩む。原材料メーカーは設備老朽化のため、ユーティリティコストが上昇し、当社への販売価格が引き上げられている。価格引き上げに了承しなければ、原材料の販売を止められる。中小企業より大手企業の賃上げ幅が遙かに大きく、新卒採用は厳しい。（プラスチック）
- 原材料の価格上昇が続き、より一層の価格転嫁を必要としている。そのため販売数量が減少し、工場の稼働率が低下している。（プラスチック）
- 原材料仕入単価の上昇を受け、適正販売価格を検討している。（プラスチック）
- 売上は増加しているが、原材料価格が高騰しているため、利益に結びつかない。（紙製品）
- 仕入価格の上昇が課題だ。（紙製品）
- 売上が増加した。（印刷業）

## [来期の業況について]

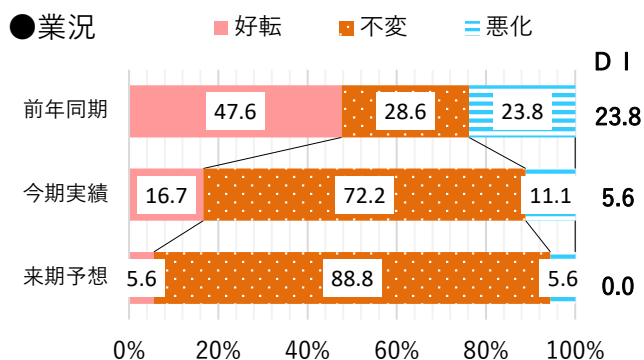
- 設備投資により、生産量の増加を見込む。販売、仕入価格の変動が読めず、収益は不透明だ。（食料品）
- 物価はまだ上がると思われ、人手不足も年々厳しくなる。製品の値上げや、賃上げが必要だ。（食料品）
- 今後も原材料価格と賃金の上昇が続くと思われるので、適正な価格や賃金を見極めたい。（食料品）
- 生産量の増加に伴い、人員確保が重要となる。賃金上昇の影響も見込まれる。（食料品）
- 仕入価格の上昇に加え、最低賃金改定に伴う経費の増加が収支に影響する。（食料品）
- 主力商品の値上げが収益の改善につながることを期待している。（食料品）
- 仕入価格や経費上昇の状況が続き、改善は見込めない。（食料品）
- 仕入額の上昇と人材確保難が続く。（食料品）
- 値上げに伴う反響が不透明だが、それによる売上の微増を見込む。（飲料）
- 大型物件の出荷があるため、業況の好転を見込む。（金属製品）
- 物流と人材確保が大きな問題だと思う。（金属製品）
- 得意先への値上げ交渉を続ける。生産性を上げるための設備投資を実施し、来年度の賃上げに向けての準備期間としたい。（プラスチック）
- 原材料価格が上昇する。需要の停滞により、販売価格への転嫁は困難になる。（プラスチック）
- 販路を拡大し、売上の増加を図る。（プラスチック）
- 原材料費の高騰が続く。（紙製品）
- 人材確保に苦勞する。（紙製品）
- 最低賃金の動向、加工賃の価格転嫁の見通しが不透明だ。公共事業の予算増加が見込まれるため、売上単価の上昇と業況の好転が期待される。（その他繊維製品）
- 防衛省関連の加工物件の増加が見込まれる。（衣類）
- 売上の増加が続く。（印刷業）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

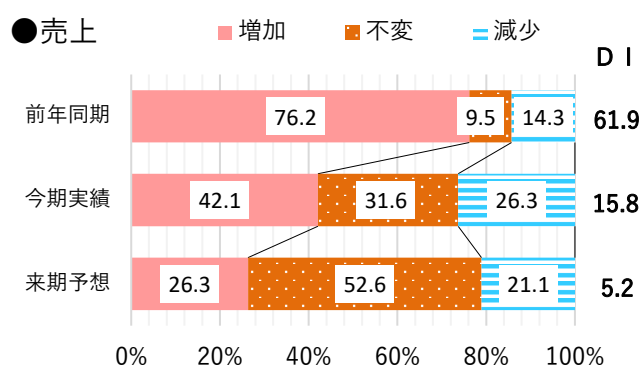
今期(2024.7~9)の業況判断DIは5.6で、前年同期(2023.7~9)と比べ18.2ポイントと低下しました。

来期(2024.10~12)は、業況に大きな変化はないと予想しています。



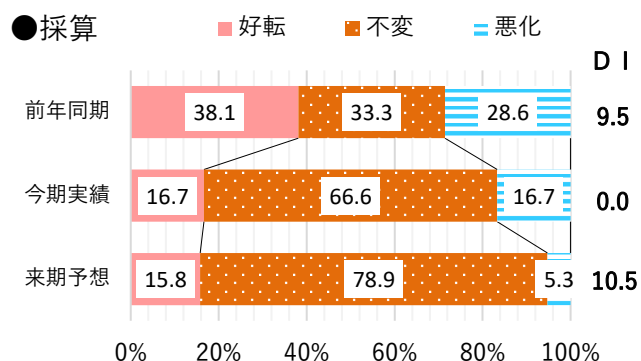
今期の売上DIは15.8で、前年同期と比べ46.1ポイントと大幅に低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

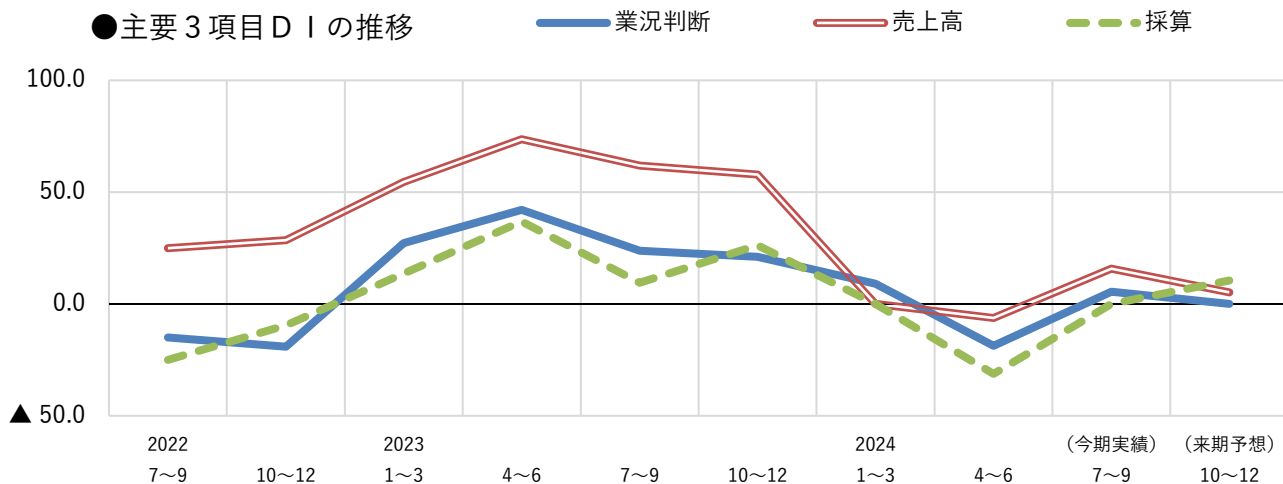


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ9.5ポイント低下しました。

来期は、採算がプラスに転じると予想しています。



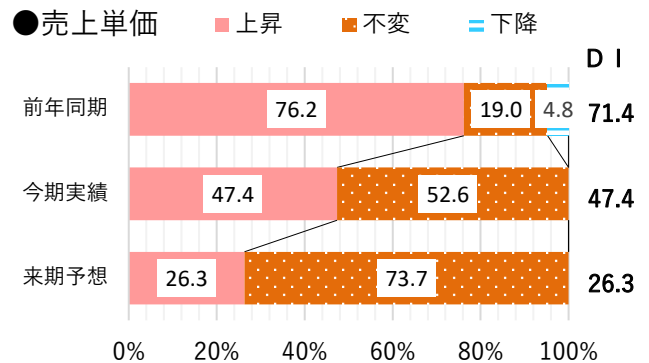
### ●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

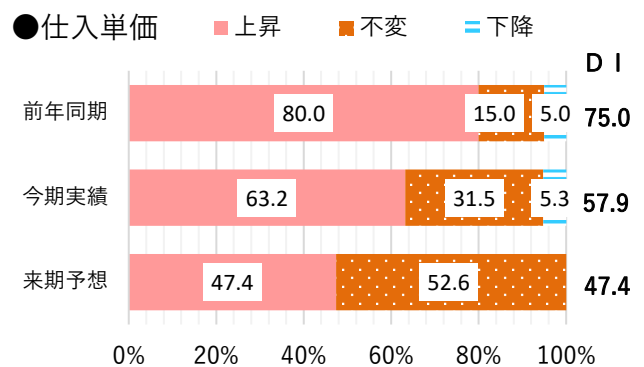
今期の売上単価DIは47.4で、前年同期と比べ24.0ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは57.9で、前年同期と比べ17.1ポイント低下しました。

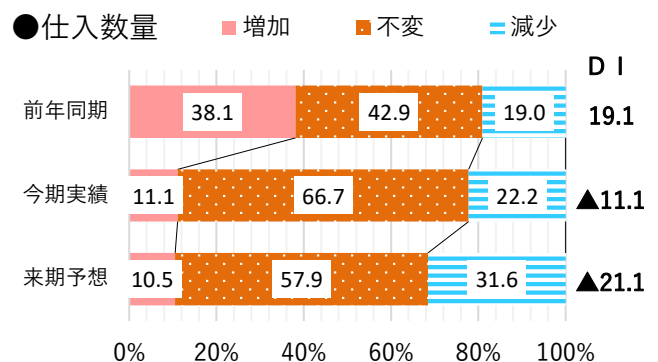
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

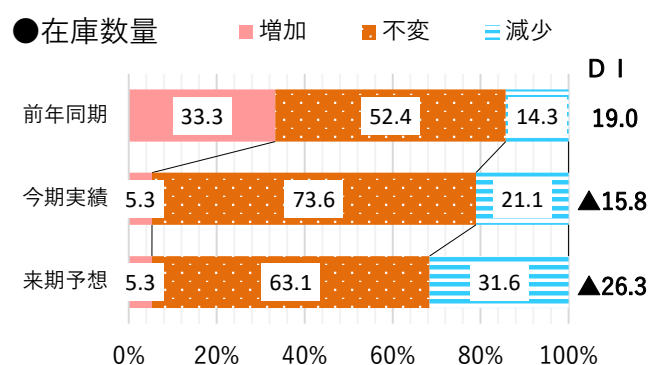
今期の仕入数量DIは▲11.1で、前年同期と比べ30.2ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、仕入数量の減少傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲15.8で、前年同期と比べ34.8ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

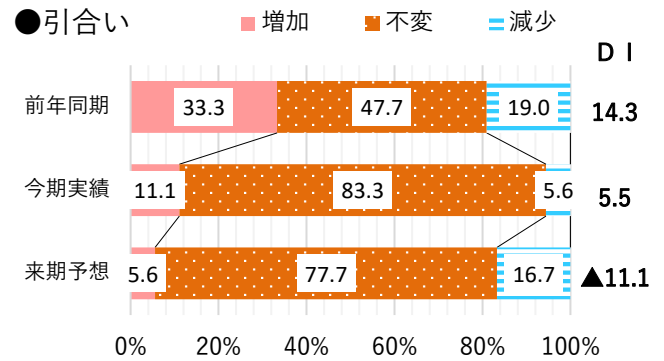
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは5.5で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

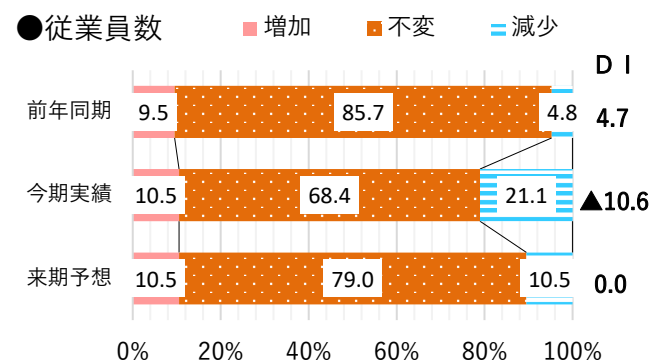
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



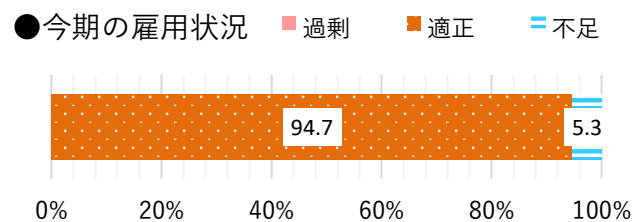
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.6で、前年同期と比べ15.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は94.7%、不足していると回答した企業の割合は5.3%でした。



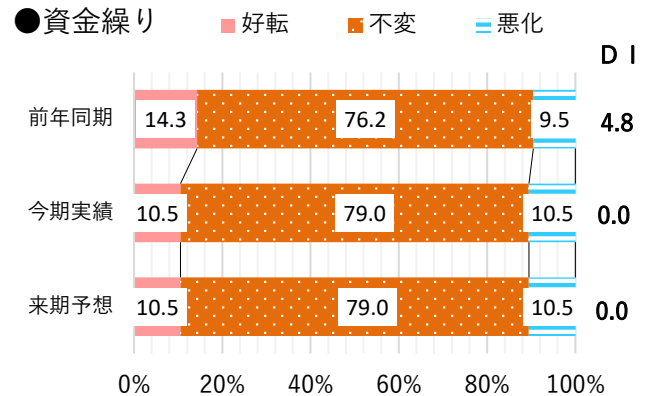
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の68.4%を占めており、不足と回答した企業は1社でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	0
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	1

## 資金繰り、設備投資

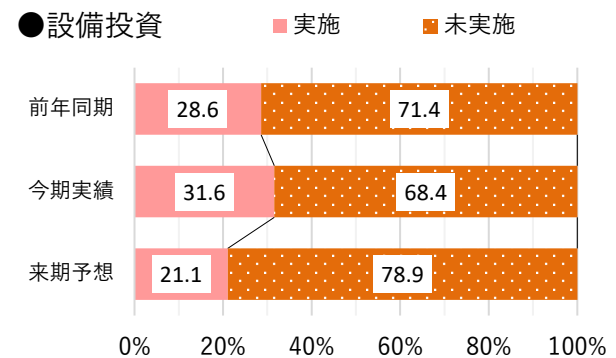
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ4.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



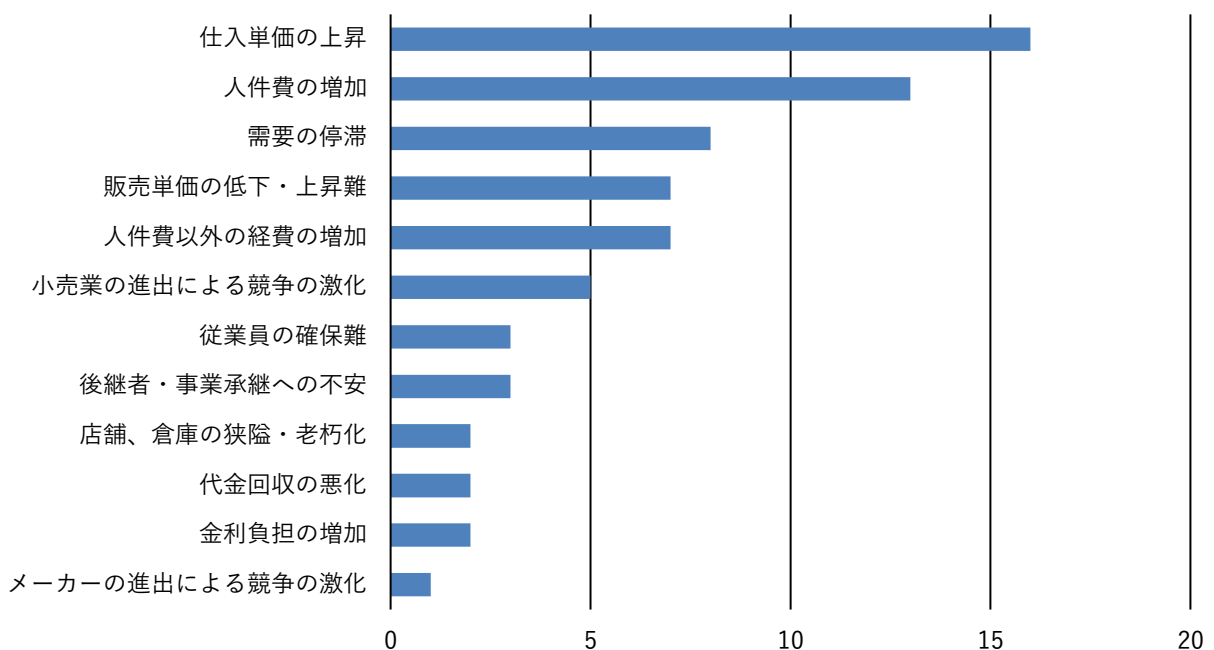
設備投資を実施した企業の割合は31.6%で、前年同期と比べ3.0%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.1%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 仕入価格のみならず、全ての経費が上昇しており、売上を維持しても利益は薄くなる。需要も停滞気味で、一般工事が決まりにくい。（建築材料）
- 各資材の値上げにより、上半期の売上は去年より増加した。人材の確保が必要だ。（建設材料）
- 以前売れ行きが良かった商品の在庫がまだ残っており、今年の売上はなかなか上がらない。（包装資材）
- 仕入価格を価格転嫁できず苦戦している。冬の閑散期に向けて在庫は抑える。（鉱物・金属材料卸売）
- 仕入価格が上昇傾向にある。（食料・飲料）
- 商品仕入単価と運賃が上昇した。（自動車部品）
- 前年比で良くなっているが、利益水準はまだ低い。（石油）
- 売上が増加した。（事務用品）

## [来期の業況について]

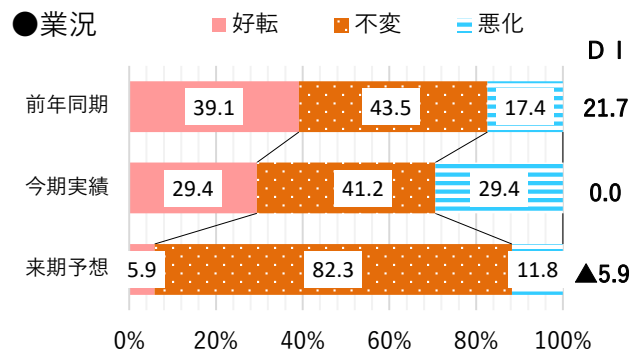
- 人件費の上昇や2024年問題等による運送コストの上昇、納期遅れがさらに深刻となる。（建築材料）
- 今期に引き続き、各資材の値上げによる売上の増加を見込む。人材の募集を続ける。（建設材料）
- 仕入単価が上昇し、どこまで転嫁できるか分からない。業況を維持できるよう努力する。（包装資材）
- 案件が少なく、来年の春以降まで期待出来ないと思われる。（鉱物・金属材料卸売）
- 今後も仕入価格の上昇が見込まれる。（食料・飲料）
- 物価高による値上げが予想されるため、商品の仕入れに注意する。災害が各地で続いているため、見通しが悪い。（自動車部品）
- 今期と同程度の売上を見込む。（事務用品）

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

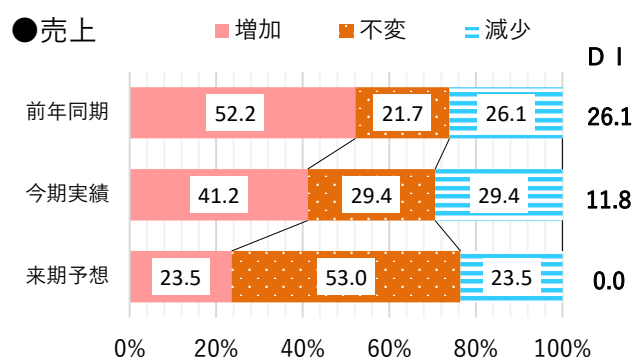
今期(2024.7~9)の業況判断DIは0.0で、前年同期(2023.7~9)と比べ21.7ポイント低下しました。

来期(2024.10~12)は、業況がマイナスに転じると予想しています。



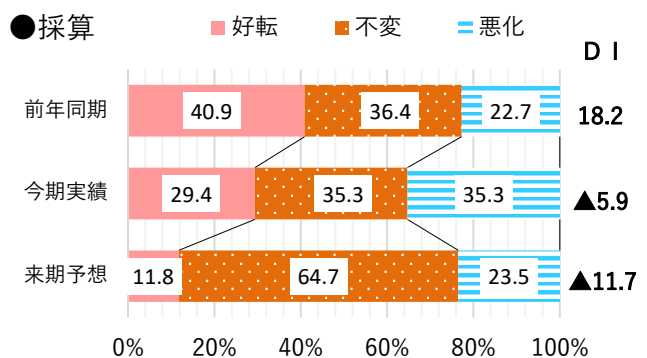
今期の売上高DIは11.8で、前年同期と比べ14.3ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

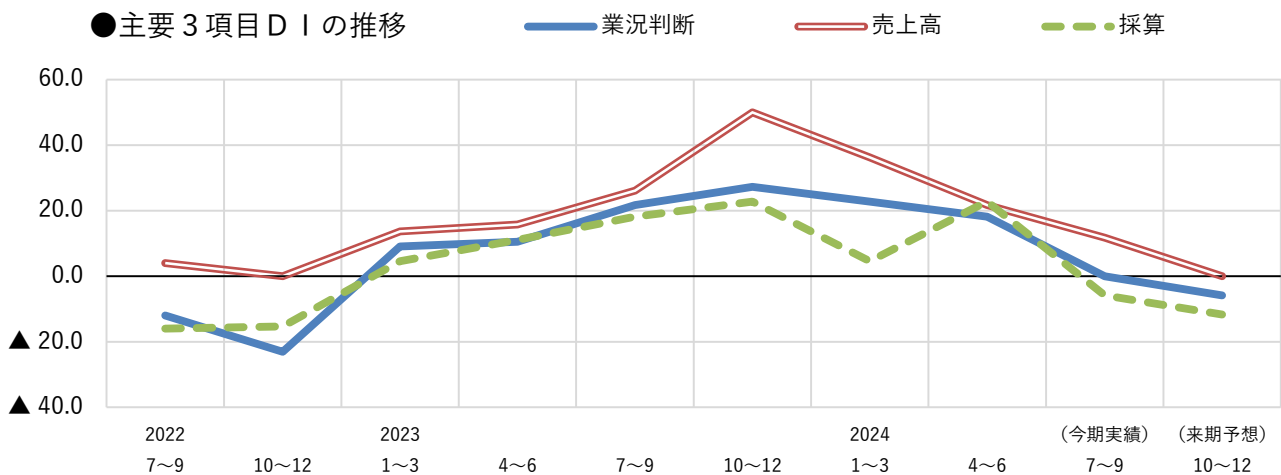


今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ24.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



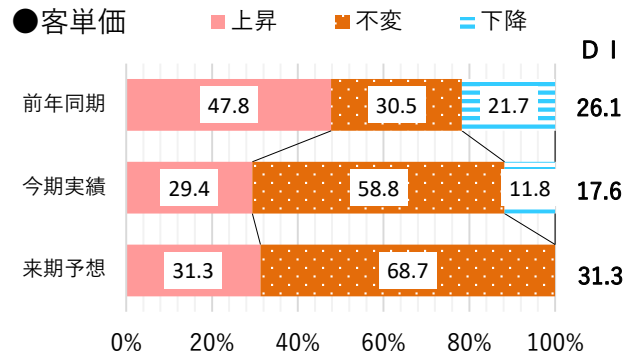
### ●主要3項目DIの推移



客単価、客数

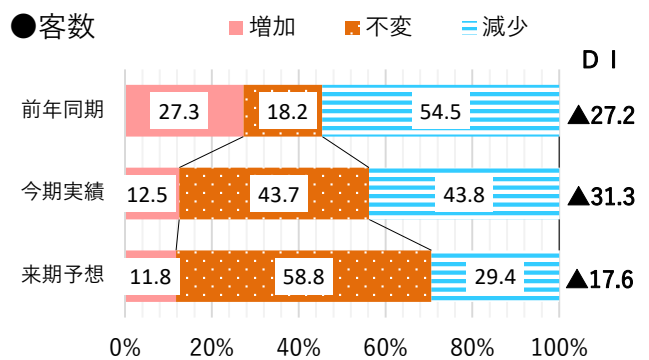
今期の客単価DIは17.6で、前年同期と比べ8.5ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の客数DIは▲31.3で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

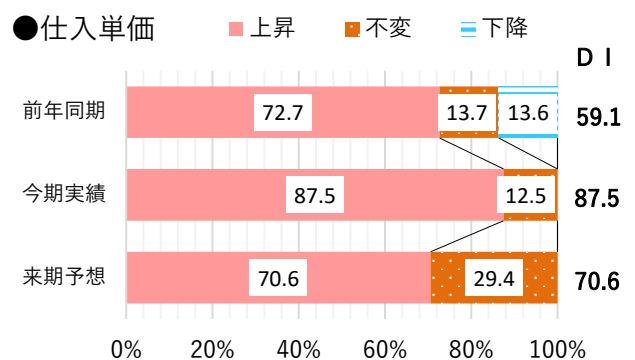
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

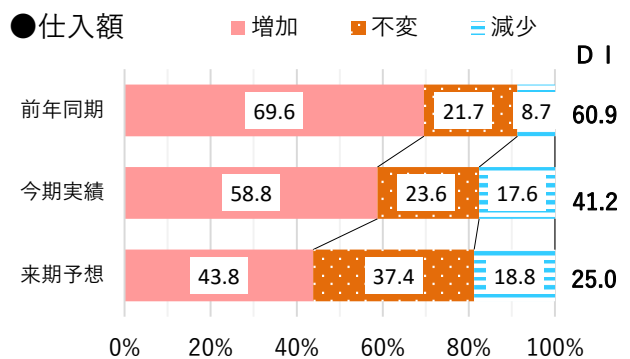
今期の仕入単価DIは87.5で、前年同期と比べ28.4ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入額DIは41.2で、前年同期と比べ19.7ポイント低下しました。

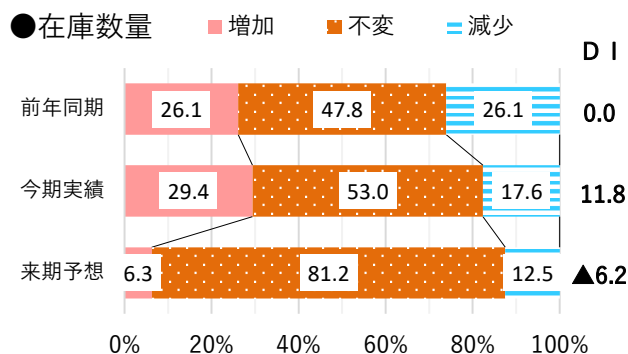
来期は、仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。





今期の在庫数量DIは11.8で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

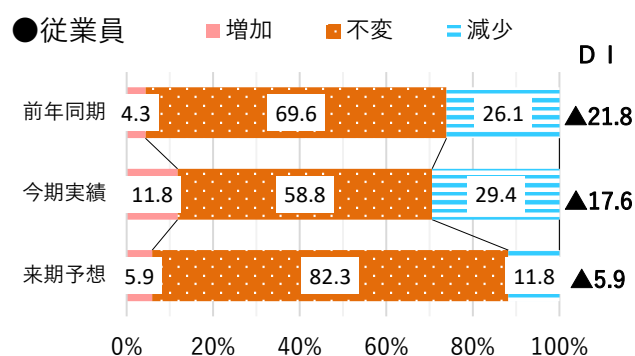
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



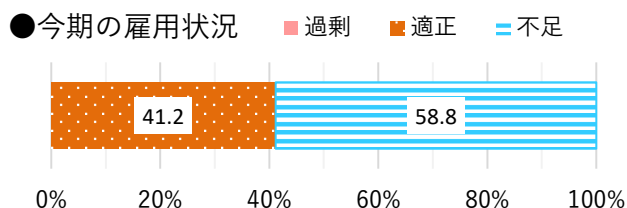
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.6で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合はなく、適正であると回答した企業の割合は41.2%、不足していると回答した企業の割合は58.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、29.4%を占めており、58.8%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

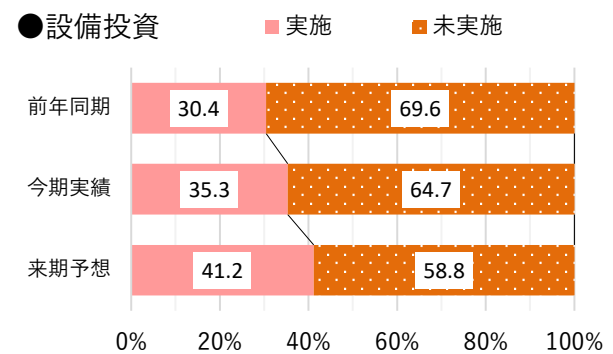
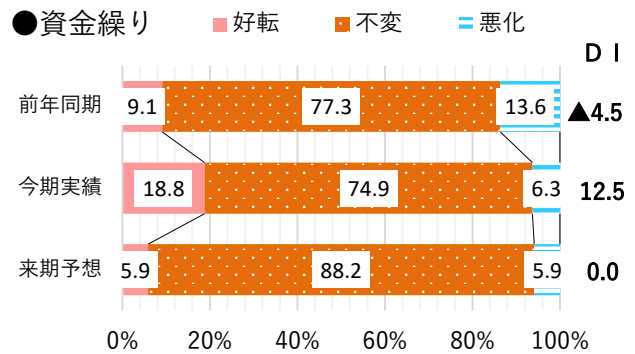
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは12.5で、前年同期と比べ17.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。

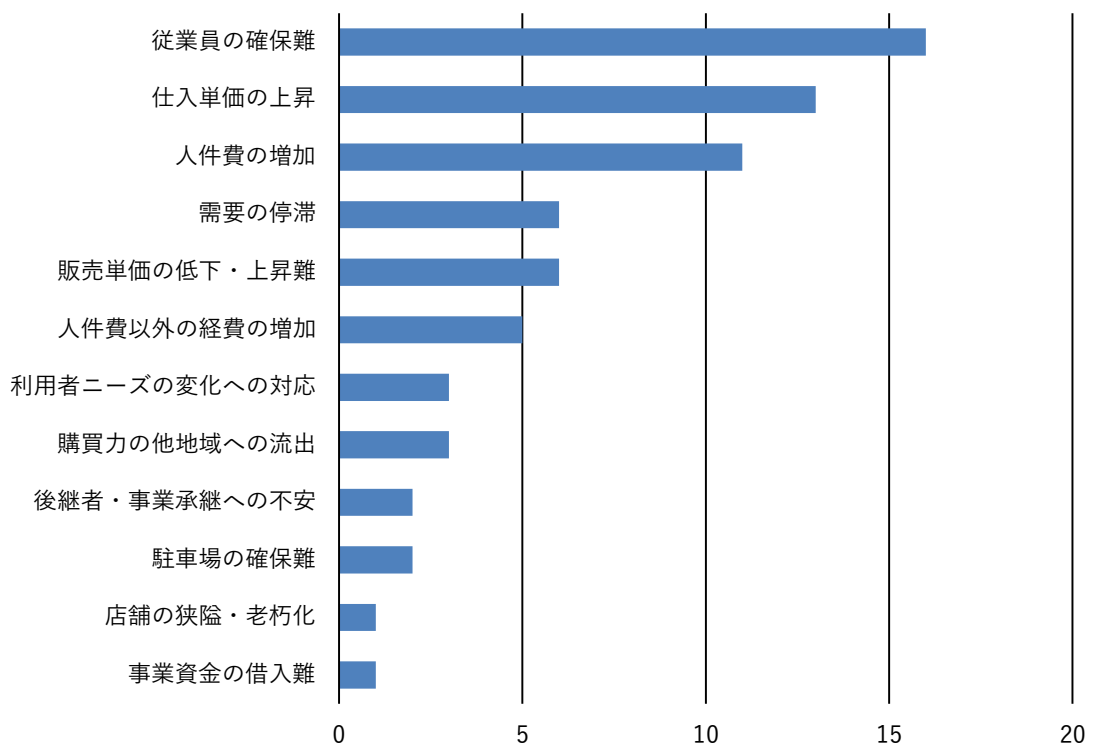
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ4.9%上昇しました。投資内容は1位が「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」、「OA機器」（同位）、2位が「土地」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は41.2%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 客単価は下降、客数は減少傾向にある。米の在庫が減少している状況から、客単価、客数にも影響が出ている。10月以降は米が安定供給されるのではないかと。(大型店)
- 観光客は昨年より増えて恩恵を受けているが、昨年よりも気温が上がり切らなかったため季節商品全般の動きが鈍かった。(大型店)
- 売上、採算が順調に推移してきたが、仕入単価が大幅に上昇したため、先行きは不透明だ。(食料品)
- 人々の動きがコロナ前に戻ってきているようで、来店数が昨年の同時期より増えてきている。観光客も増えてきているが、原材料の値上げが止まらず、思うような利益は出ていない。(菓子製造小売)
- 8月の売上、利用客数がともに減少した。原因は分からない。(コンビニ)
- 車両のサブスクが定着し始めており、客単価が上昇した。(自動車)
- 仕入原価が高騰している。(自動車)
- 利用客数の減少もあり、売上が減少した。Webでの受注が増え、リアル店舗の利用が減少している。(家電量販店)
- 昨年同期比で売上、客数がともに増加した。学生のアルバイトが増加し、人材を確保できた。賃金は北海道の最低賃金に準拠している。(ホームセンター)

## [来期の業況について]

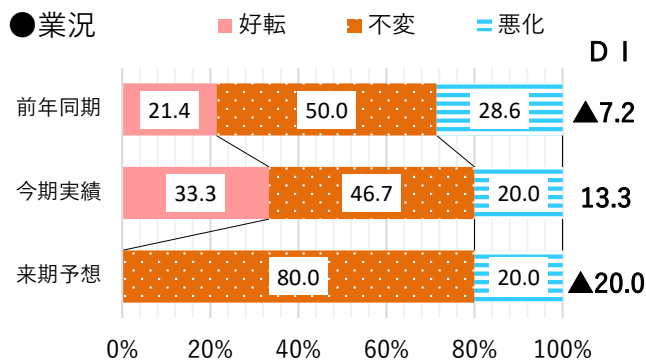
- 電気料金の単価調整の終了や人件費の上昇から、経費管理が非常に難しくなる。物価上昇により、節約志向がより一層強まる。(大型店)
- 米の枯渇や値上がりの影響で価格感度が高まり、消費者の生活防衛意識が高まると予想する。(大型店)
- 商品仕入単価の大幅な値上がりにより、売上高、採算ともに不透明だ。(食料品)
- 最低賃金引き上げのため人件費の上昇が避けられない。いかに利益を出すか悩ましい。(菓子製造小売)
- 業況の回復に期待する。(コンビニ)
- 今後は客数の増加に注力するが、即効性は望めないため、好転は見込めない。(自動車)
- 為替相場の変化に左右される。(自動車)
- 今期同様に売上、利用客数の減少を予想するが、リアル店舗を利用するメリットを施策に取り入れて、状況の改善を図る。(家電量販店)
- 今期同様、売上、客数の増加と従業員の増加を見込む。(ホームセンター)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

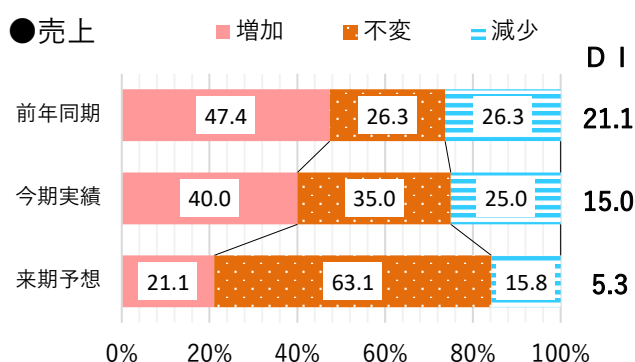
今期（2024.7～9）の業況判断DIは13.3で、前年同期（2023.7～9）と比べ20.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期（2024.10～12）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



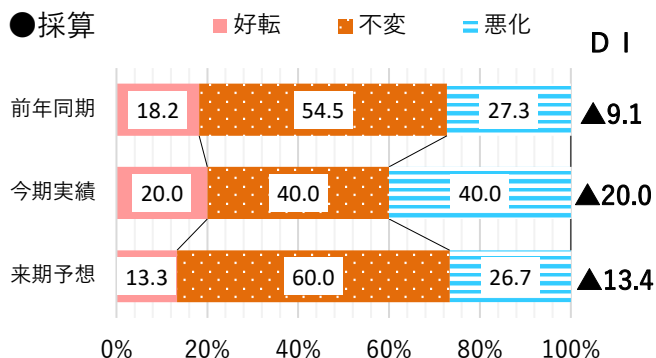
今期の売上高DIは15.0で、前年同期と比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

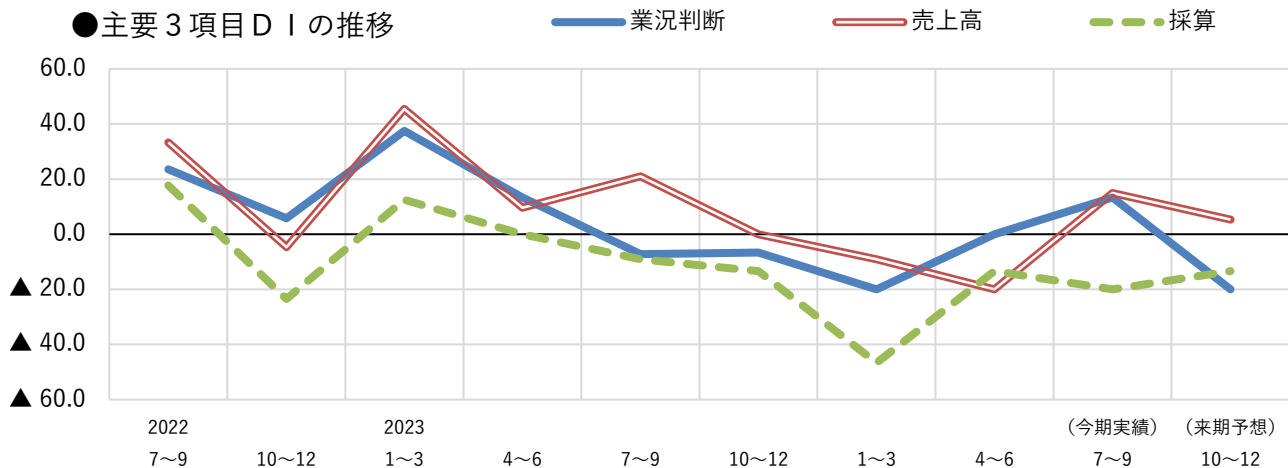


今期の採算DIは▲20.0で、前年同期と比べ10.9ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



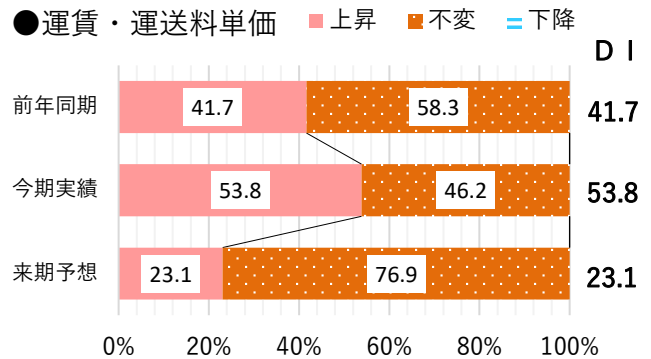
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

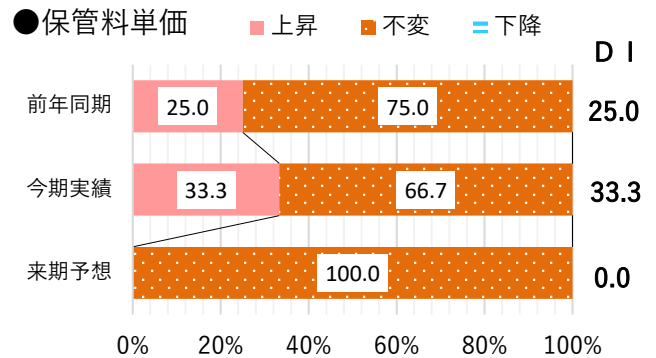
今期の運賃・運送料単価DIは53.8で、前年同期と比べ12.1ポイント上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の保管料単価DIは33.3で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

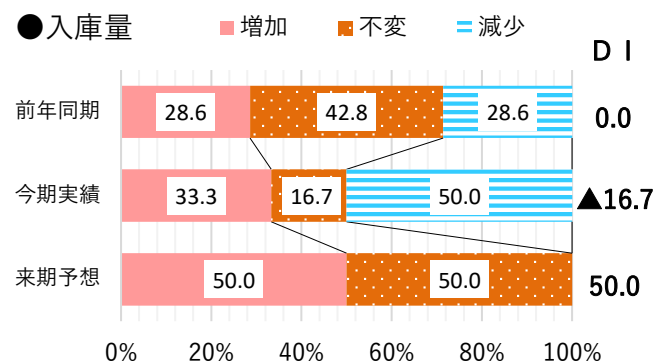
来期は、保管料単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

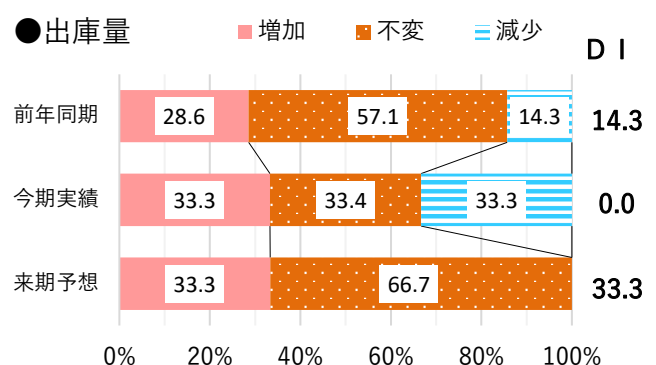
今期の入庫量DIは▲16.7で、前年同期と比べ16.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



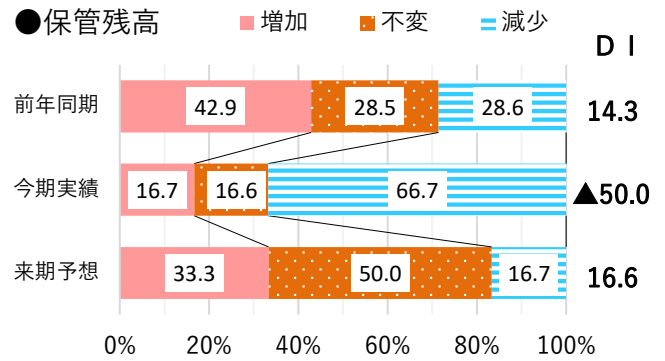
今期の出庫量DIは0.0で、前年同期と比べ14.3ポイント低下しました。

来期は、出庫量が大幅なプラスに転じると予想しています。



今期の保管残高DIは▲50.0で、前年同期と比べ64.3ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

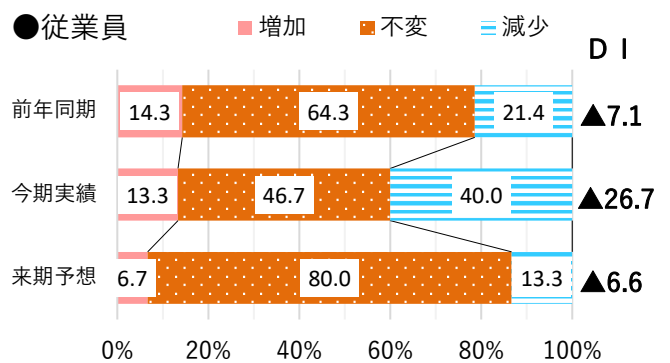
来期は、保管残高が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



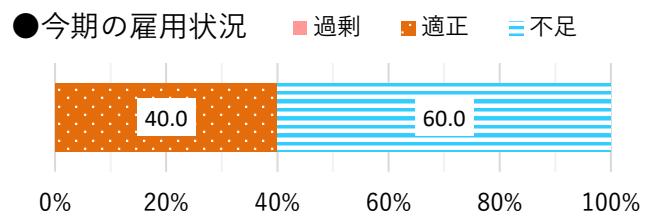
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲26.7で、前年同期と比べ19.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。



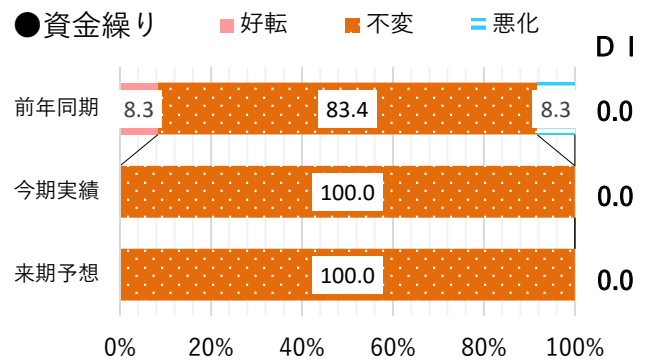
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、33.3%を占めました。60.0%の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	5

資金繰り、設備投資

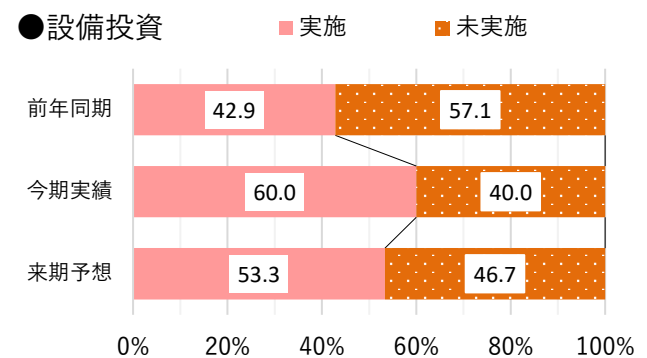
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期から変化はありませんでした。

来期も、資金繰りに変化はないと予想しています。



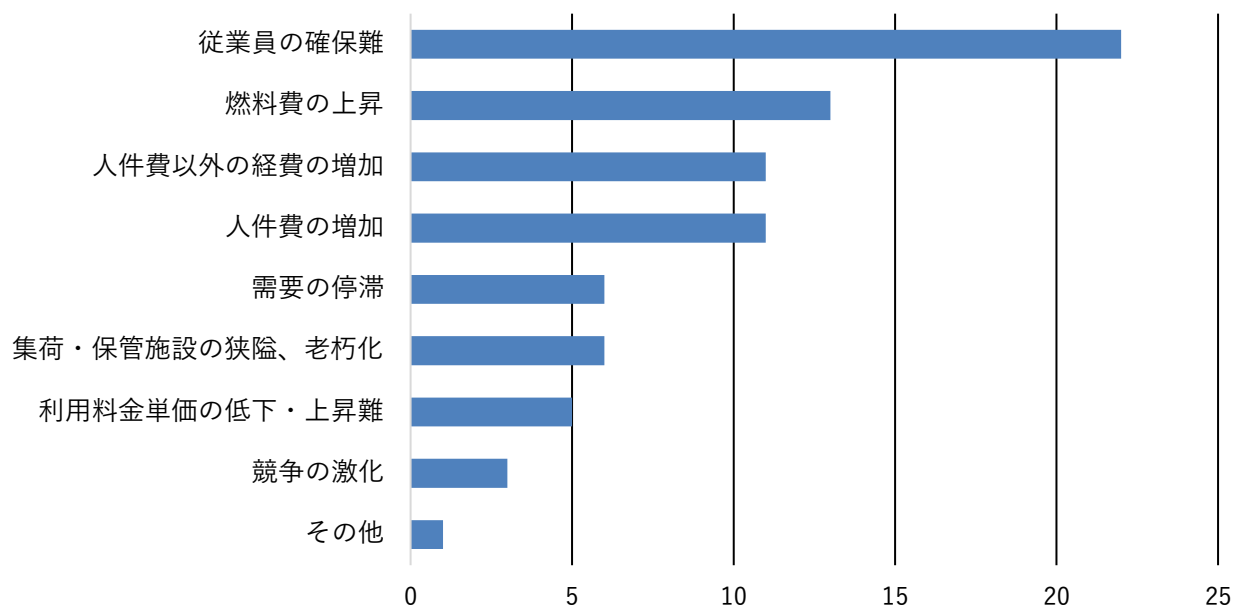
設備投資を実施した企業の割合は60.0%で、前年同期と比べ17.1%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は53.3%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」、「人件費の増加」（同位）の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 順調な荷動きとM A米の入庫により、貨物輸送と倉庫事業が順調に推移した。(道路貨物運送)
- 車両費、修繕費、部品代、フェリー代等全ての費用が大幅に上昇した。(道路貨物運送)
- 若干の人員増となったが、燃料費を始め企業物価の高騰により採算は厳しい。(道路旅客運送)
- 売上は増減したが、トータルでは昨年と変わりなかった。(道路旅客運送)
- 人材確保が課題だ。(道路旅客運送)
- 昨年比で冷凍水産物の入庫量が減少した。(倉庫)
- 人材確保ができていない。(倉庫)
- 旅客は旅行需要の増加や運賃改定、台風の影響を受けずに運航できたことで、売上が増加した。貨物もキャンペーンによる需要喚起で荷動きが良く、野菜関連が順調に動いたため、売上が増加した。(海運)

## [来期の業況について]

- ドライバーの退職による稼働減少が予想され、収益の減少を見込む。(道路貨物運送)
- 人材確保に努める。運賃の値上げを予定する。(道路旅客運送)
- 物価高騰により厳しい採算が続く。(道路旅客運送)
- 引き続き人材確保に苦勞すると思われる。(倉庫)
- 燃油価格が高止まりしているが、野菜関連が順調に動けば、前年度よりも売上は増加となる。(海運)

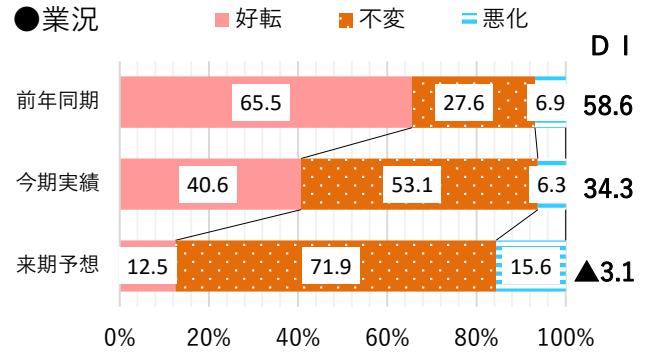


# 観光業

## 業況、売上、採算

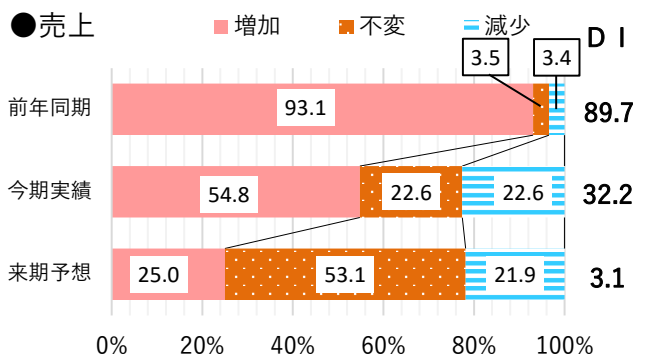
今期（2024.7～9）の業況判断DIは34.3で、前年同期（2023.7～9）と比べ24.3ポイント低下しました。

来期（2024.10～12）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



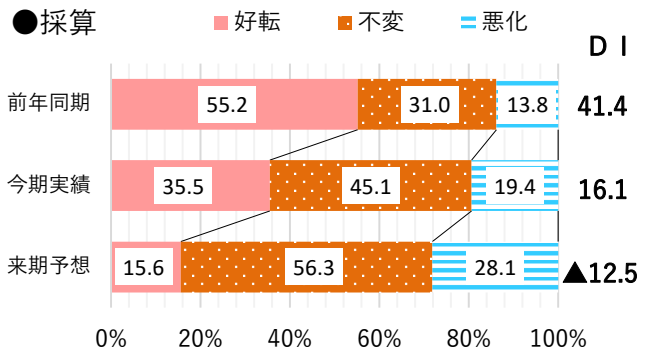
今期の売上DIは32.2で、前年同期と比べ57.5ポイントと大幅に低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

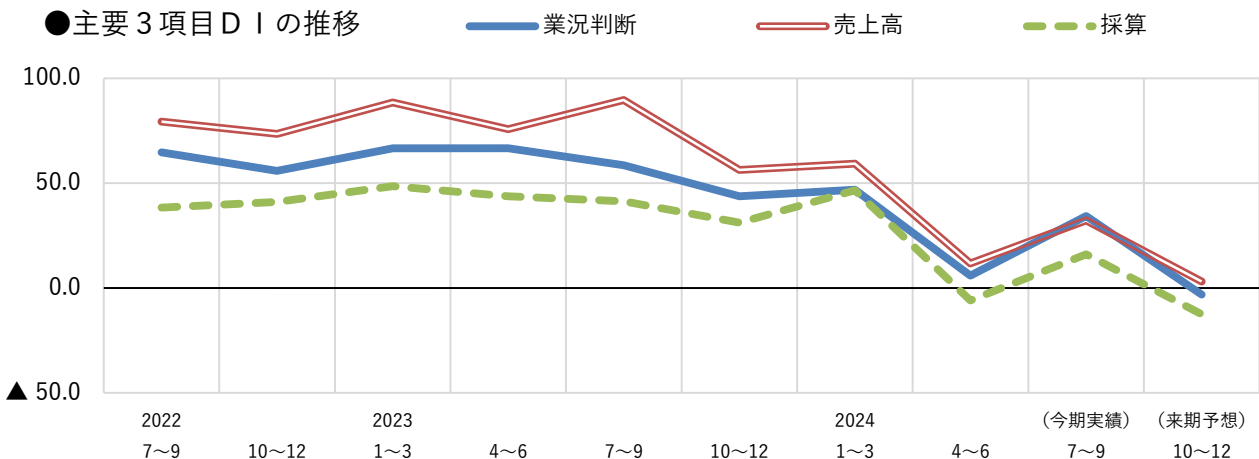


今期の採算DIは16.1で、前年同期と比べ25.3ポイント低下しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



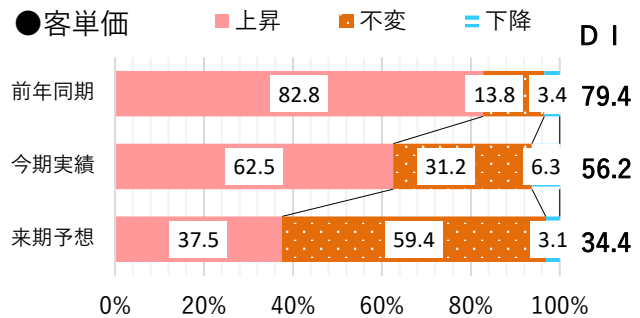
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

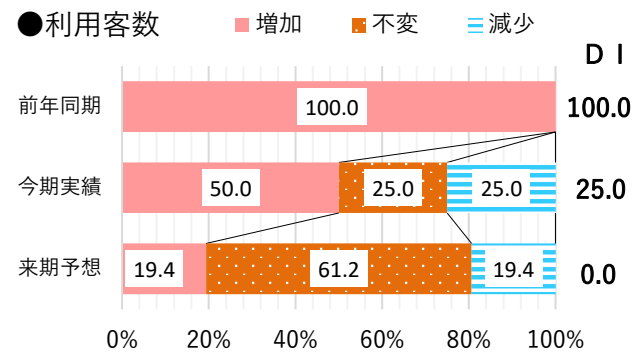
今期の客単価DIは56.2で、前年同期と比べ23.2ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



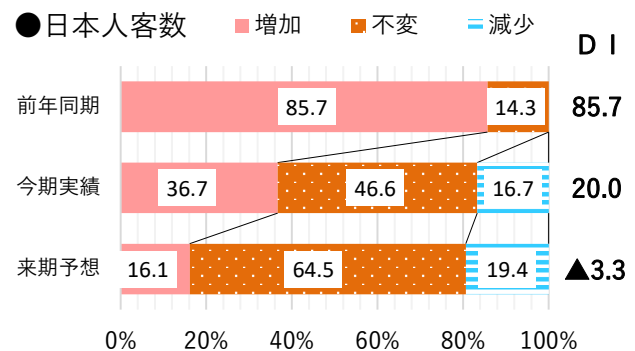
今期の利用客数DIは25.0で、前年同期と比べ75.0ポイントと大幅に低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



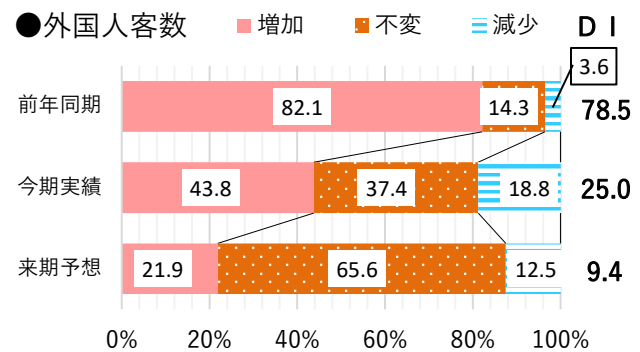
今期の日本人客数DIは20.0で、前年同期と比べ65.7ポイントと大幅に低下しました。

来期は、日本人客数がマイナスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは25.0で、前年同期と比べ53.5ポイントと大幅に低下しました。

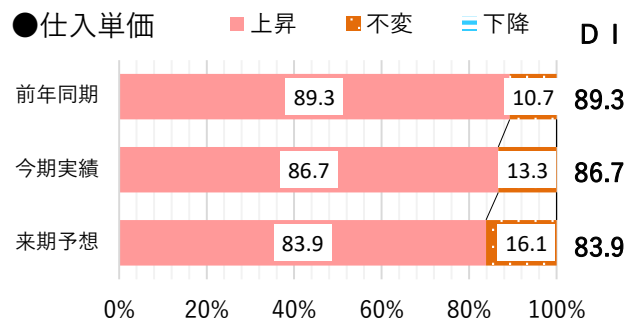
来期は、外国人客数の増加傾向が弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは86.7で、前年同期と比べ2.6ポイント低下しました。

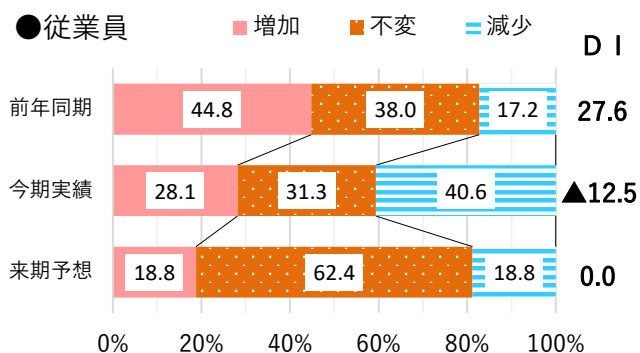
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



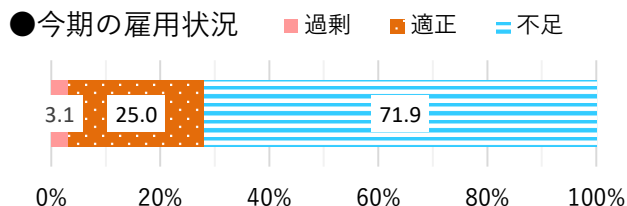
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲12.5で、前年同期と比べ40.1ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は25.0%、不足していると回答した企業の割合は71.9%でした。



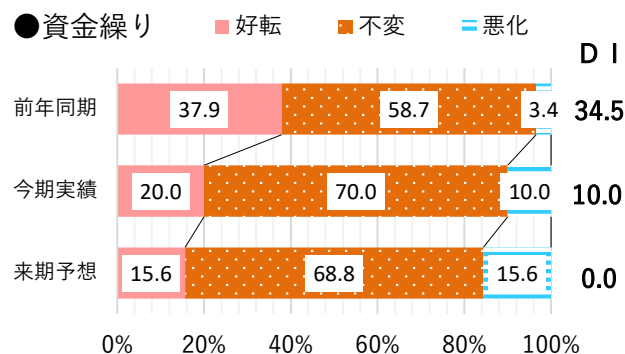
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答で、37.5%を占めました。回答全体では71.8%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	3
	不足	5
不変だった	過剰	0
	適正	4
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	12

## 資金繰り、設備投資

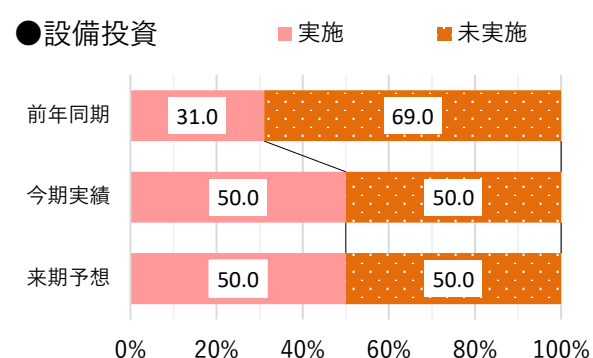
今期の資金繰りDIは10.0で、前年同期と比べ24.5ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べて19.0%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、  
「建物」(同位)、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は50.0%で、横ばいを予想しています。

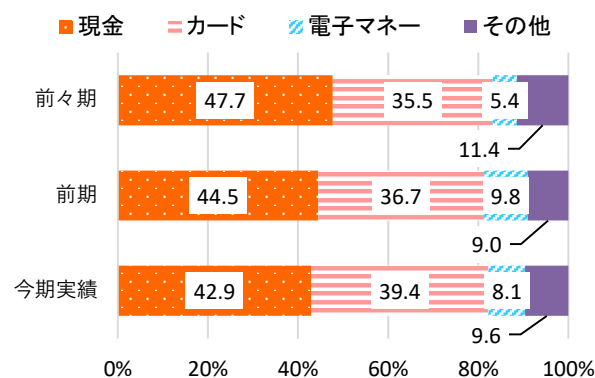


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で42.9%、2位がカードで39.4%、3位が電子マネーで8.1%、4位がその他で9.6%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、交通系ICカード、QUICpay、電子マネー(E dy、W a o n等)、掛売り、クーポン券、金券、銀行振込、ポイント決済、バーコード決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

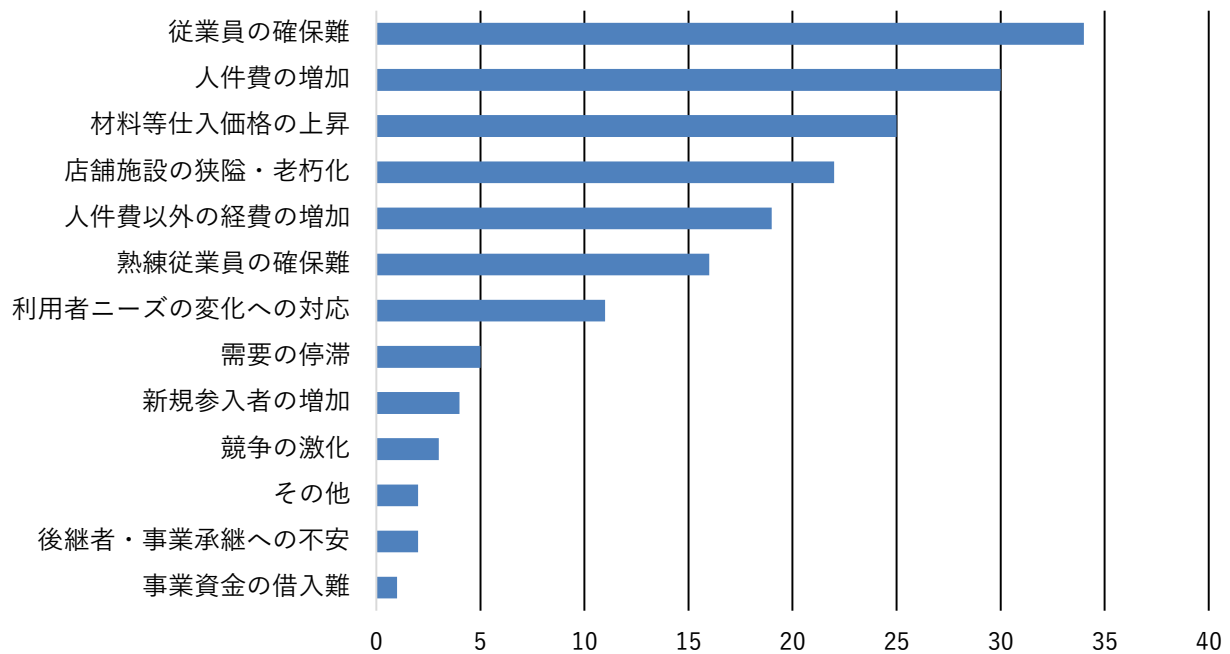


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は77.5%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 昨年同期、前期と比べ業況が少し悪化した。インフレ経済の下、日本人は客数と購入額がともに減少しており、外国人客もやや減少した。確実に勢いが無くなってきている。4月に値上げをしたので、売上は減少していないが、販売数量は減少している。主原料以外の原材料と人件費などの諸経費が継続して上昇しているため、採算は悪化している。人手不足が切迫しているため、人件費を引き上げざるを得なく、事業運営にも大きな支障をきたしている。（土産品）
- 以前のようにインバウンドが戻ってきているが、波が激しく、安定しない。クレジットカードの利用者が増加したことによる手数料の増加も痛手だ。（土産品）
- 売上は増加しているが、仕入価格や人件費の高騰により、採算の好転に結びつかない。（土産品）
- 仕入価格の上昇と人材確保が課題だ。（土産品）
- インバウンドが多く、地元のお客様が来店しづらい状況にある。（飲食店）
- 日本人客数が伸びない。外国人客が中心となっている。（飲食店）
- 仕入単価はまだ値上がりすると思われる。（飲食店）
- 売上が回復した。（飲食店）
- 航空便不足により、外国人観光客が減少している。札幌のホテルが増加したため、小樽は日帰りコースとなり、宿泊客が減少している。人材も札幌に集中しており、集まらない。（ホテル）
- 国内個人旅行者が増加する一方で、国内団体旅行者が減少している。インバウンドは韓国、台湾、シンガポール、タイ等東南アジアも伸びてきている。（ホテル）
- 販売単価が上がっている分、売上も増加した。清掃スタッフが少なく、募集してもなかなかいい人材からの申し込みがない。（ホテル）
- 仕入原価及び経費、販促費用、人件費等の増加によって、売上の割に採算が好転していない。（ホテル）
- 売上が増加し、客単価が上昇した。仕入価格の上昇により、全体としてはやや好転となった。（ホテル）

- アルコールの売れ行きが良い。(ホテル)
- 人材確保が難しい。(コテージ・ペンション)
- 札幌、千歳での売上は好転したが、小樽での売上は減少した。(レンタカー)
- インバウンドの利用が増加した。(レンタカー)
- 会社の周年記念で告知を増やしたこと、インバウンドの増加などにより売上が増加した。(社会教育)
- 一部値上げ効果により増益となるが、コスト増の為業績は変わらない。(娯楽業)
- 乗船客数、売上、インバウンド客数は全て増加し、過去最高となった。(水運業)

## [来期の業況について]

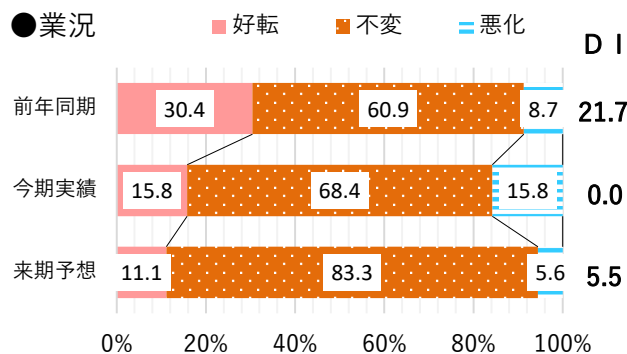
- 引き続き業況の悪化局面での事業運営を迫られる。観光客数の減少で売上が減少する一方で、主原料の値上げ、最低賃金の引き上げが予定されており、採算面でも厳しさが増す。人手不足を解決する有効策が見い出せず、事業運営も更に厳しさを増し、接客などのサービスの質の低下を懸念している。小樽観光の今後の発展にも影響が出ると考えている。(土産品)
- 今期同様、売上の増加と経費の高騰を見込む。(土産品)
- 閑散期に向かうため、厳しくなる。(土産品)
- 値上げにより客単価が上昇するが、仕入単価の上昇傾向も続く。(飲食店)
- 今期と同じ情勢が続けば、より良い状況を目指せると思う。(飲食店)
- インバウンドの利用に助けられると思う。(飲食店)
- 夏休みシーズンが過ぎ、国内個人旅行者の減少が見込まれるが、インバウンドの個人、団体旅行者の利用は期待できる。(ホテル)
- 最低賃金を含む人件費が増加する。客単価、売上は伸びるが、経費高騰の見通しは不透明だ。(ホテル)
- 利用客が増えるため、増収を見込むが、人材の確保が課題となる。(ホテル)
- 仕入価格と人件費が上昇し、業績は悪化すると思われる。(ホテル)
- 各種経費の増加により、採算の伸び悩みが続く。(ホテル)
- 変化する要因は見当たらない。(ホテル)
- 人材確保に苦勞する。冬期のインバウンド増加を見込む。(コテージ・ペンション)
- 今期同様、インバウンドの利用が好調となる兆しがある。(レンタカー)
- 引き続きインバウンドの増加が見込まれるが、施設の経年劣化により修繕費が増大する。(社会教育)
- 冬期のため大きな変動はない。(娯楽業)
- 冬期の閑散期に向かうため、乗船客数と売上は減少が見込まれる。(水運)

# サービス業

## 業況、売上、採算

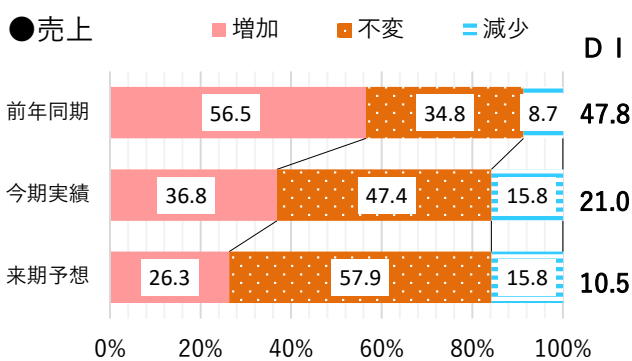
今期（2024.7～9）の業況判断DIは0.0で、前年同期（2023.7～9）と比べ21.7ポイント低下しました。

来期（2024.10～12）は、業況がプラスに転じると予想しています。



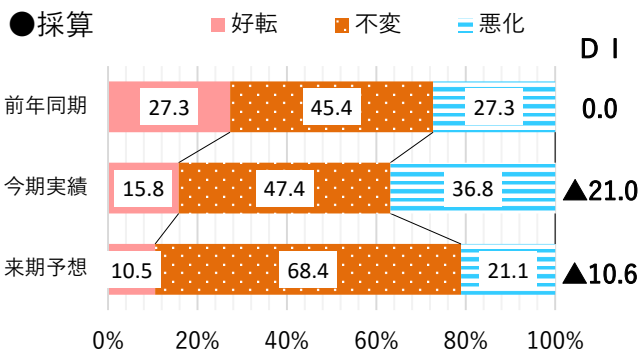
今期の売上高DIは21.0で、前年同期と比べ26.8ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

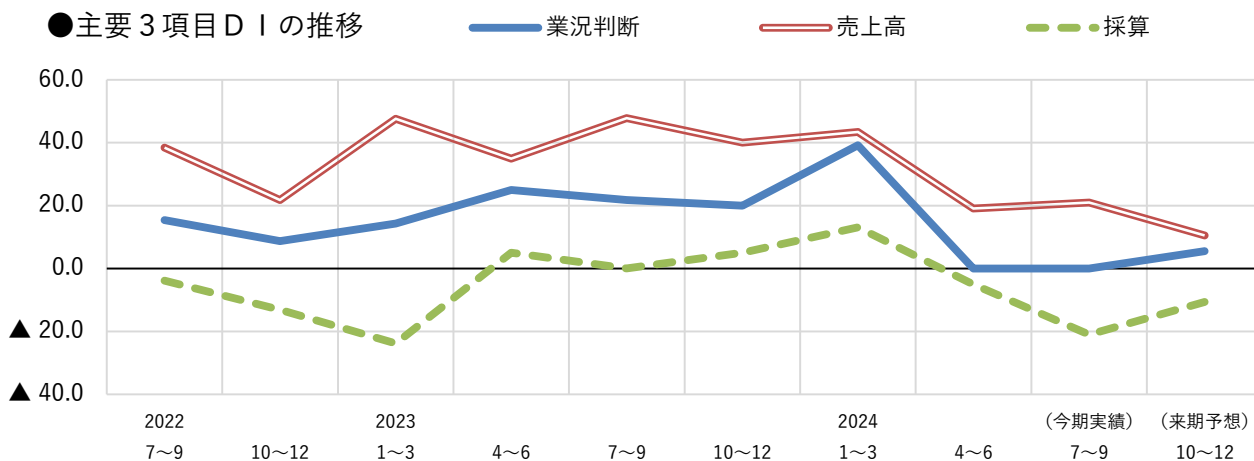


今期の採算DIは▲21.0で、前年同期と比べ21.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



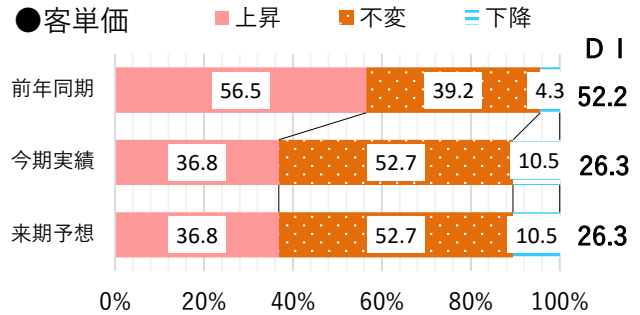
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

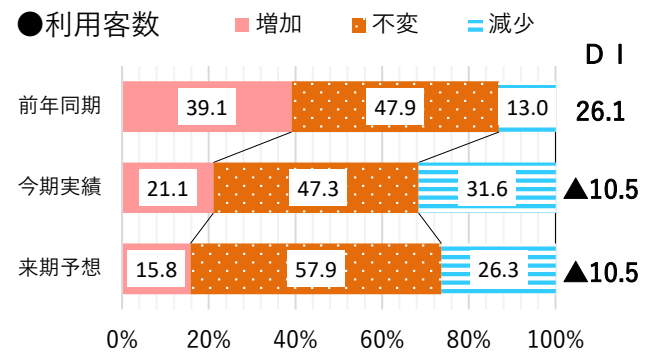
今期の客単価DIは26.3で、前年同期と比べ25.9ポイント低下しました。

来期は、客単価の横ばいを予想しています。



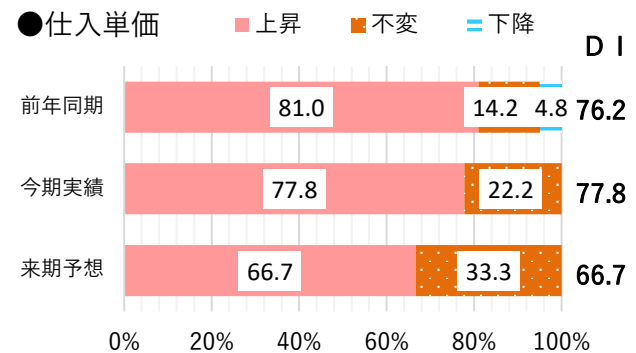
今期の利用客数DIは▲10.5で、前年同期と比べ36.6ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、利用客数の横ばいを予想しています。



今期の仕入単価DIは77.8で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

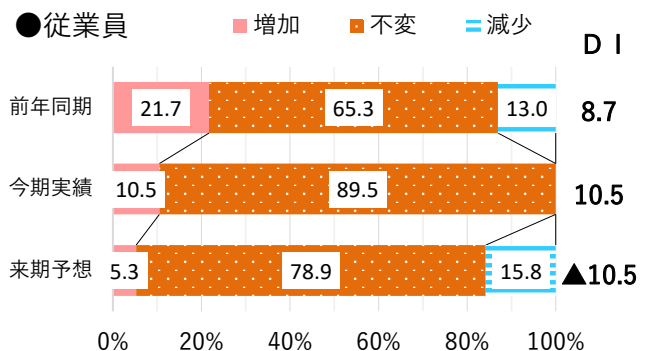
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは10.5で、前年同期と比べ1.8ポイント上昇しました。

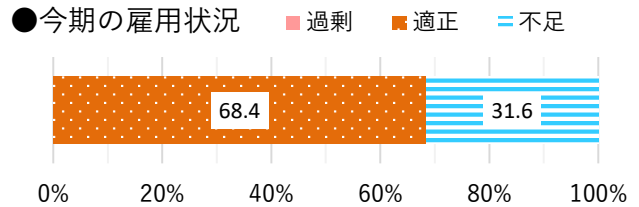
来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。





今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は68.4%、不足していると回答した企業の割合は31.6%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、57.8%を占めました。回答全体では31.5%の企業で従業員が不足しています。



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	0

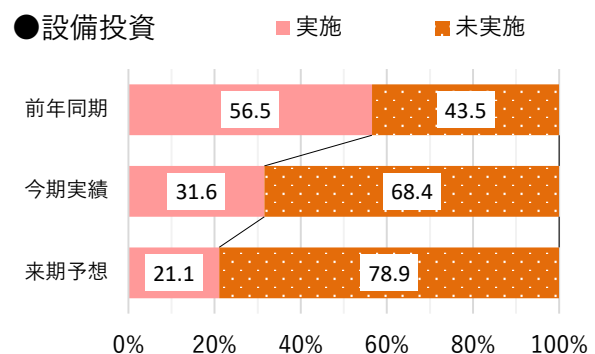
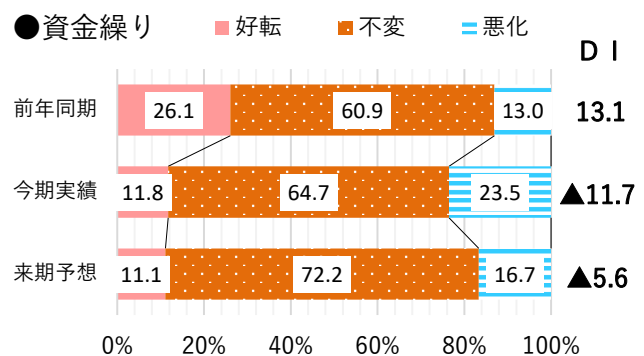
### 資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲11.7で、前年同期と24.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期も、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

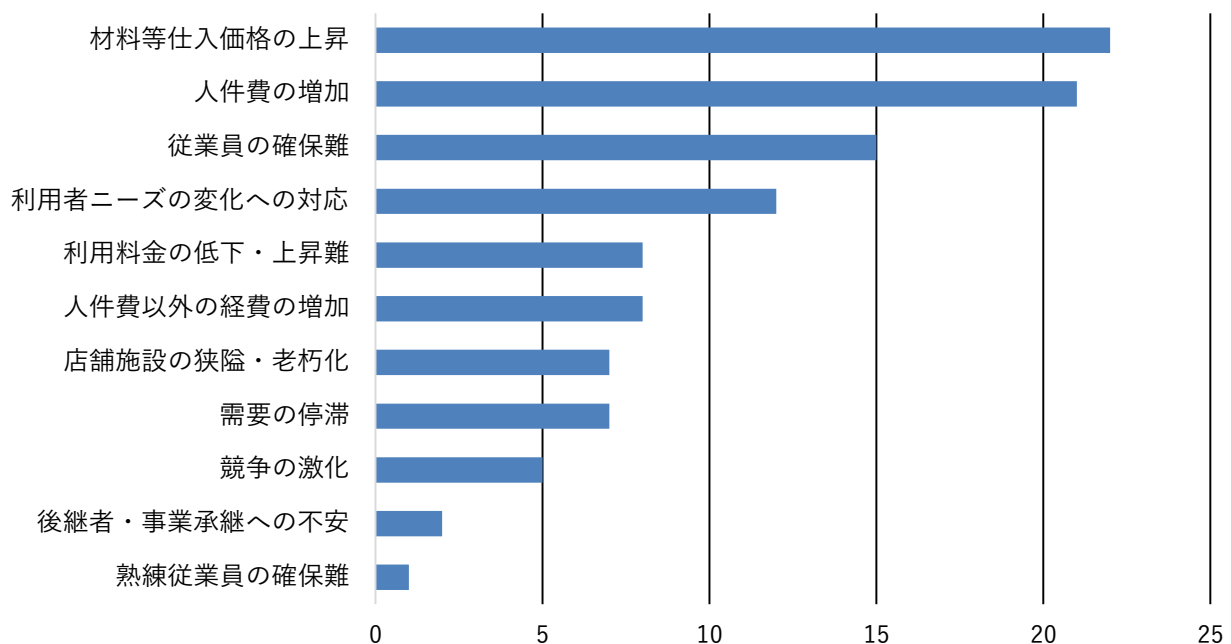
設備投資を実施した企業の割合は31.6%で、前年同期と比べ24.9%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「サービス設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.1%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- 本州からの観光客が多く、客単価も高いため、売上は増加した。仕入価格は上昇傾向にある。(飲食店)
- 昨年は国内外の観光客が多く、コロナ禍前より売上があったが、今期に入り、コロナ禍前の売上水準に落ち着いてきた。(ビルメンテナンス)
- 最低賃金の上昇により、負担が増大している。(ビルメンテナンス)
- 仕入単価が上がり続けている。客数は変わらないが、利用のサイクルが長い人が増えており、今後の課題だ。イベントが多いと利用者が増えるので、市の活気と店の売上が比例していると実感する。(美容業)
- 外国人の利用増加や法改正で業績は好転した。人件費等のコスト増加が課題だ。(不動産代理・仲介業)
- 仕入単価の上昇に伴い、売上が減少した。(写真業)
- 仕入価格の上昇分を転嫁できておらず、従業員の時間外労働等の経費増加、昨年の大型案件(特需)が無い影響で業績が悪化したと思われる。(旅行代理店)

### [来期の業況について]

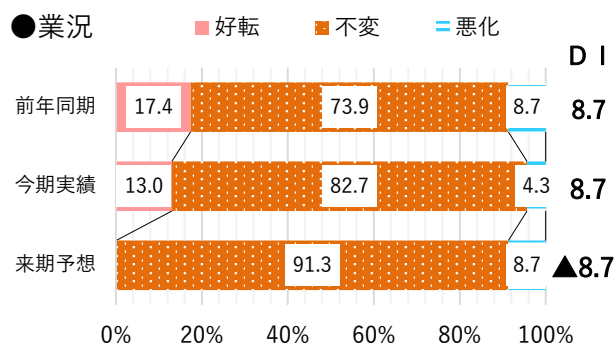
- 寒くなる時期に向けて観光客も減る傾向にあるので、売上も減少する。(飲食店)
- 今期同様の状況を予想する。仕入価格の上昇はないと判断する。(ビルメンテナンス)
- 最低賃金の上昇により、更なる負担増が見込まれる。(ビルメンテナンス)
- 前半は変わらないが、12月に向けて客数が増加すると思われる。年末は予定を立てやすらしく、予約率が上がる。(美容業)
- 今期の法改正の影響が、来期の好転材料になると思われるため、期待している。(不動産代理・仲介業)
- 仕入価格の上昇に加え、運賃値上げ分の別途請求もあり、商品単価を上げざるをえない。(写真業)
- 物価高騰が続く中で、売上の増加は見込めない。(写真業)
- 仕入額が上がった分は一定の追加代金を請求する等、価格に転嫁して収益の下げ幅を押さえている。いずれにしても薄利多売の商売は今後も行わず、費用対効果を意識しながら進める。(旅行代理店)

# 建設業

## 業況、売上、採算

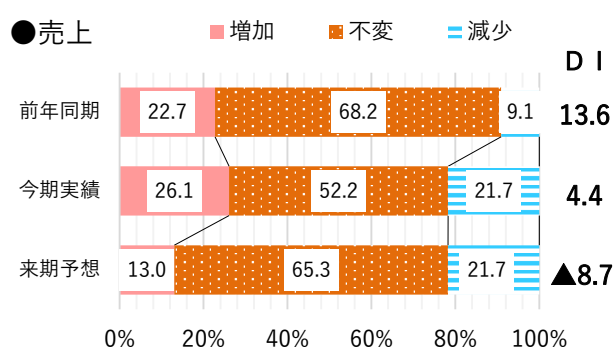
今期（2024.7～9）の業況判断DIは8.7で、前年同期（2023.7～9）と比べ横ばいとなりました。

来期（2024.10～12）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



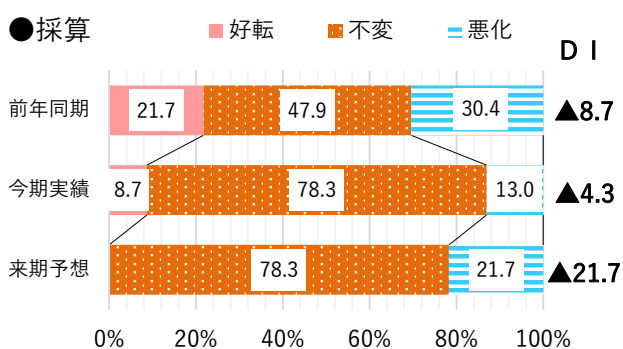
今期の売上高DIは4.4で、前年同期と比べ9.2ポイント低下しました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

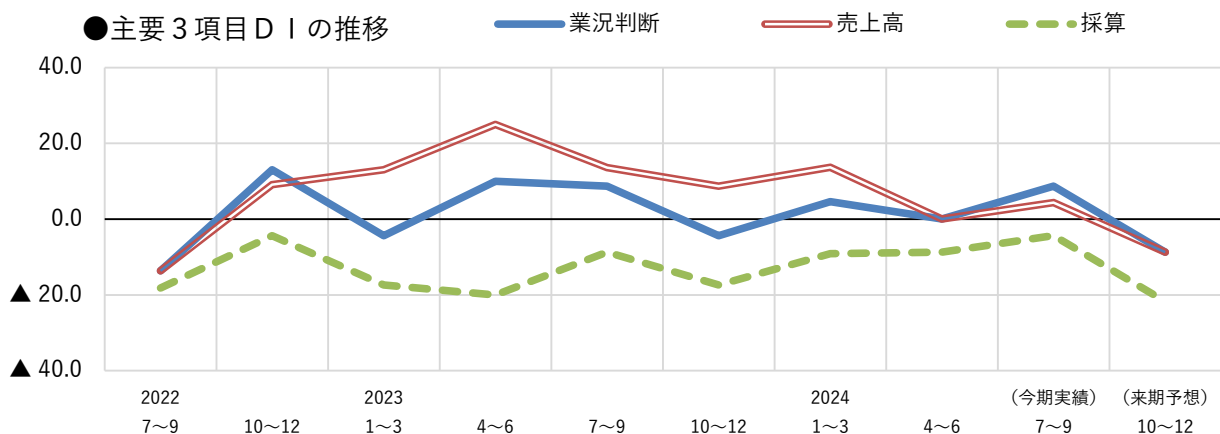


今期の採算DIは▲4.3で、前年同期と比べ4.4ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



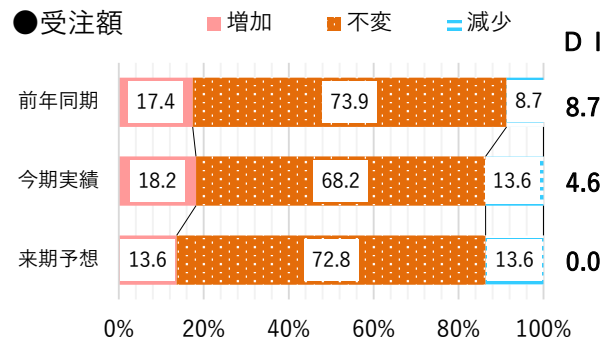
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

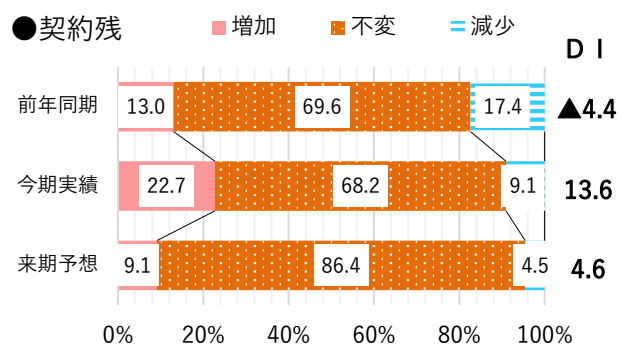
今期の受注額DIは4.6で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

来期は、受注額の増加傾向が弱まると予想しています。



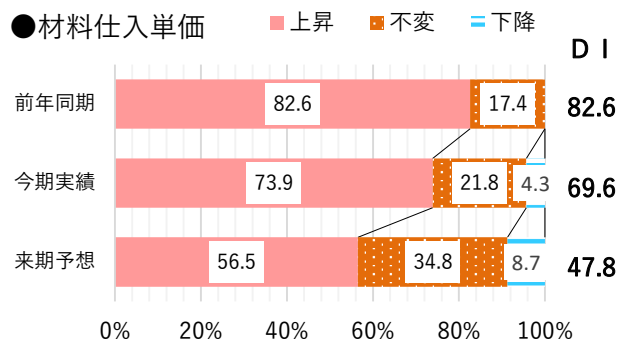
今期の契約残DIは13.6で、前年同期と比べ18.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは69.6で、前年同期と比べ13.0ポイント低下しました。

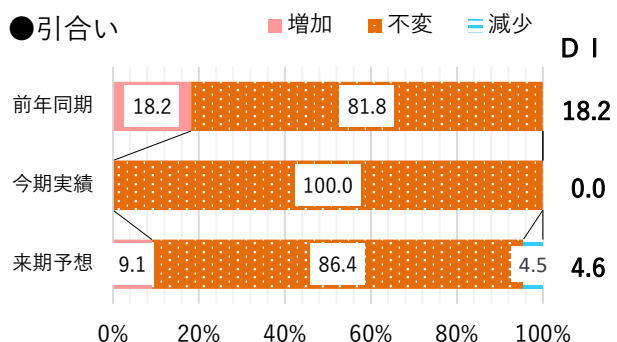
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

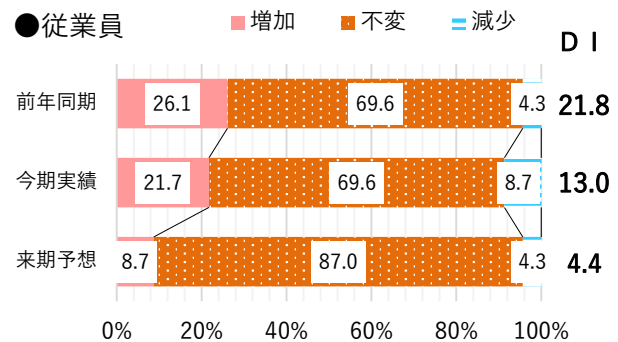
来期は、引合いがプラスに転じると予想しています。



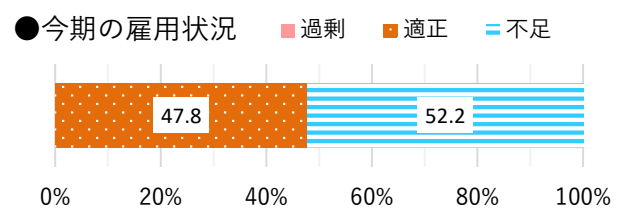
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは13.0で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は47.8%、不足していると回答した企業の割合は52.2%でした。



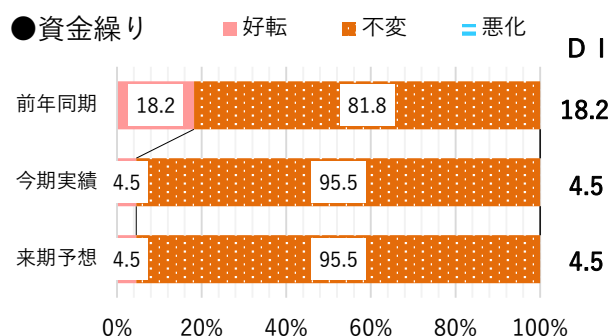
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答で、34.7%を占めました。回答全体では、52.1%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

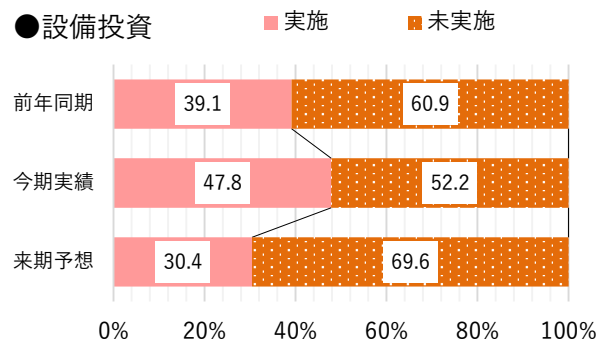
今期の資金繰りDIは4.5で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



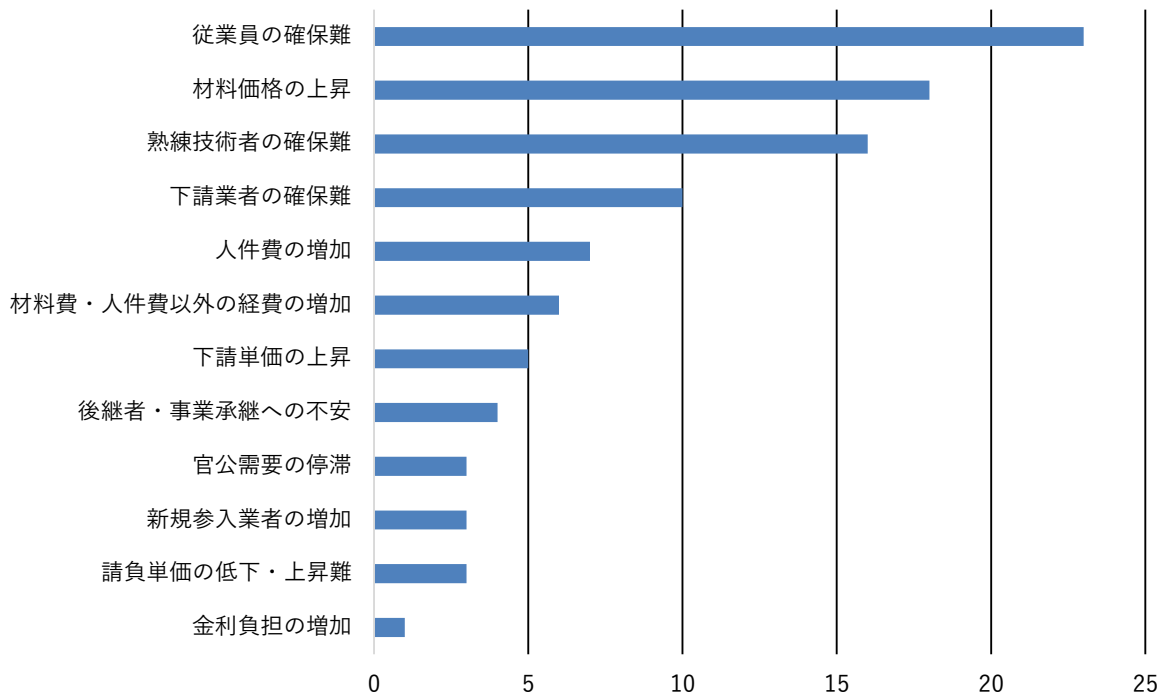
設備投資を実施した企業の割合は47.8%で、前年同期と比べ8.7%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建設機械」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は30.4%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 売上額は増加したが、仕入価格の上昇による請負価格の引き上げによるものだと考えられるため、業況は不変と判断する。(一般土木工事業)
- 前年同期と売上に変わりはなく、不変と判断する。(一般土木工事業)
- 昨年と同程度の売上だった。(一般土木工事業)
- 求人を出しても応募がない。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題だ。(一般土木工事業)
- 前年同期比で売上は30%増加し、仕入単価は10%上昇した。(職別工事業)
- 人材不足により、受注件数が減少した。(設備工事業)

- 受注は順調で、現場も工程通りの施工ができています。（一般管工事業）
- 民間工事の受注件数が前期よりも減少している。（造園業）
- 工事量に対して、作業員が不足している。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 引き続き仕入価格、人材不足等が続く。業況は不変だと思われる。（一般土木工事業）
- 売上に変化はないと思われる。（一般土木工事業）
- 売上は10%程度減少を見込む。仕入単価の動きは分からない。（職別工事業）
- 人材不足に加え、工事数の減少も見込まれる。（設備工事業）
- 悪くなる要因が今のところ見当たらない。降雪積雪が早まらないことを祈る。（一般管工事業）
- 工事の受注が増加する要素が見当たらない。人件費、材料費の高騰が見込まれる。（造園業）
- 作業員の不足が続く。（電気工事業）

# 市内企業倒産状況

2024年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比減少  
負債総額は2,900万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<u>1件</u>	<u>2,900万円</u>
前年同期比	件数 -1件 (前年同期 2件)	負債 -6億3,400万円 (前年同期 6億6,300万円)
■7月 なし		
■8月 水産物販売（負債2,900万円：既往のシワ寄せによる破産）の1件が発生した。		
■9月 なし		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2024年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は77件、前年同期比増加  
新設着工住宅戸数は38棟72戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>77件</u>	<u>38棟72戸</u>
前年同期比	件数 +14件 (前年同期 63件)	戸数 -3棟+9戸 (前年同期 41棟63戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		